

島根大学考古学研究室調査報告第9冊

大井窯跡群表採資料の報告

2008

島根大学法文学部考古学研究室

島根大学考古学研究室調査報告第9冊

大井窯跡群表採資料の報告

2008

島根大学法文学部考古学研究室

序

島根大学考古学研究室は1981年4月に設置され、現在は法文学部社会文化学科に属している。この間、多くの専攻卒業生を送り出す一方、山陰地域を中心にさまざまな調査・研究活動を行ってきた。また、2006年春には大橋泰夫が着任し、渡邊貞幸、山田康弘とともに教員3名の体制となって新たな研究活動を進めている。それらの概要については、研究室のホームページ(<http://www.hist.shimane-u.ac.jp/koukou/>)を参照されたい。

今回の報告では、研究室に所蔵・保管されている松江市大井窯跡群の採集資料を取り上げて、2006年度の授業科目「考古学実習II」として行った同資料に関する調査研究活動の成果を紹介する。

島根大学考古学研究室には、研究室発足後に調査した諸遺跡の出土資料のほかに、故山本清名誉教授によって調査・収集された膨大な量の考古資料が保管されている。今回紹介する須恵器類もその一部であり、山本先生および在籍学生らが長年にわたって踏査し採集した貴重な資料である。

大井窯跡群は『山雲国風土記』にも記載がある遺跡として知られ、古代出雲における窯業の実態を考える上で欠かすことのできない遺跡である。表採資料とはいえ、これらの資料が山陰の須恵器研究にとって重要な位置を占めることは言を俟たない。

本報告書が、大井窯跡群の実態や山陰における窯業生産を解明する上で、広く学術的に活用されることを期待する。

2008年3月

島根大学法文学部考古学研究室

渡 邊 貞 幸

大 橋 泰 夫

山 田 康 弘

例　言

1. 本書は、島根大学考古学研究室に保管されている大井窯跡群採集遺物の資料報告であり、2006年度「考古学実習II」の実習成果をまとめた。
2. 本書で紹介するババタケ窯跡、山津窯跡、岩汐窯跡は松江市大井町、唐干窯跡は松江市大海崎町に所在する。
3. 報告する資料は、すべて採集資料であり、細かな採集地点・採集状況については不明な点が多いが、注記内容から採集地点を判断した。
4. 実測図と図版の番号は一致する。
5. 本稿作成に携わった者は、以下の通りである。
岡崎由希・志賀明日香・瀧川裕子・原 浩平・三井 修（3年生）
ただし、第23図の土馬実測図は中村倫子氏（2005年度卒業生）による。
6. 作業は、渡邊貞幸教授・大橋泰夫教授・山田康弘准教授の指導のもと、上記の者が図面作成、浄書、文章作成、写真撮影を分担した。編集は大橋泰夫が学生と協議の上で行った。文責については文章末尾に明記した。
7. 本書掲載の遺物および実測図、写真などの資料は、島根大学考古学研究室で保管している。

目 次

1. はじめに	1
2. 大井窯跡群の概要	
(1) 遺跡の位置と環境	1
(2) 研究略史	1
3. 遺物	
(1) ババタケ窯跡表探資料	3
(2) 山津窯跡表探資料	16
(3) 岩沙窯跡表探資料	20
(4) 唐干窯跡表探資料	20
(5) 大井窯跡群表探資料	22
4. 窯詰め法	
(1) ババタケ窯跡表探資料	25
(2) 山津窯跡表探資料	26
(3) 岩沙窯跡表探資料	28
(4) 大井窯跡群表探資料	28
5. まとめ	29
おわりに	29

挿図目次

第1図 大井窯跡群及び周辺遺跡分布図	2
第2図 ババタケ窯跡表探資料 1	4
第3図 ババタケ窯跡表探資料 2	5
第4図 ババタケ窯跡表探資料 3	6
第5図 ババタケ窯跡表探資料 4	7
第6図 ババタケ窯跡表探資料 5	8
第7図 ババタケ窯跡表探資料 6	9
第8図 ババタケ窯跡表探資料 7	10
第9図 ババタケ窯跡表探資料 8	11
第10図 ババタケ窯跡表探資料 9	12
第11図 ババタケ窯跡表探資料 10	13
第12図 ババタケ窯跡表探資料 11	14

第13図	ババタケ窯跡表探資料12	15
第14図	ババタケ窯跡表探資料13	16
第15図	山津窯跡表探資料1	17
第16図	山津窯跡表探資料2	18
第17図	山津窯跡表探資料3	19
第18図	山津窯跡表探資料4	20
第19図	岩沙窯跡表探資料1	21
第20図	岩沙窯跡表探資料2	22
第21図	唐干窯跡表探資料	23
第22図	大井窯跡群表探資料他	24
第23図	土馬	25
第24図	ババタケ窯跡被灰・溶着資料	26
第25図	山津・岩沙窯跡被灰・溶着資料	27
第26図	大井窯跡群被灰・変色・溶着資料	28

表 目 次

第1表	ババタケ窯跡周辺表探資料観察表	31
第2表	山津窯跡表探資料観察表	34
第3表	岩沙窯跡表探資料観察表	35
第4表	唐干窯跡表探資料観察表	35
第5表	大井窯跡群表探資料観察表	35

図版目次

図版1	ババタケ窯跡表探資料
図版2	山津窯跡表探資料（上） 岩沙窯跡表探資料（中） 大井窯跡群表探資料他（下）

1. はじめに

本稿は、鳥根大学考古学研究室に保管されている大井窯跡群の表探資料について紹介したもので、2006年度における本学法文学部の授業科目「考古学実習Ⅱ」の実習成果をまとめた。報告するのは、ババタケ窯跡、川津窯跡、岩沙窯跡、唐干窯跡における表探資料である。ただし、表探時期や表探者については不明なものが多々、表探された窯の特定は注記の内容から行った。個々の資料の注記の内容については、表に記載する。大井窯跡・アサクミ窯跡と注記されたものは、表探された窯跡が特定できないため大井窯跡群と一括し、その一部を紹介する。

なお、整理した資料の中の一部については、すでに紹介されている（内田1990、岡崎・瀬古1990）。ここで大井窯跡群の須恵器資料の充実をはかるという目的のために、できる限り多くのものを詳細に記載して紹介する。

(三井)

2. 大井窯跡群の概要

(1) 遺跡の位置と環境

大井窯跡群は、鳥根県松江市大井町・大海崎町・上宇部尾町に所在する。北西には嵩山・和久羅山山系が連なり、東で中海、南で大橋川の河口に臨む立地である。窯跡は、この山系から派生する丘陵群の端部や斜面、谷間に分布している。今回紹介するのは、大井町所在のババタケ窯跡(1)、山津窯跡(2)、岩沙窯跡(3)、大海崎町所在の唐干窯跡(4)である。ババタケ窯跡と岩沙窯跡は同一丘陵にあり、それぞれ谷口、谷奥に立地し、大井町の集落より北の丘陵端に山津窯跡、大海崎町南端の丘陵突端に唐干窯跡が位置する。こうした大井窯跡群の立地は、燃料としての木材の確保や、窯業製品の搬出に適していたと考えられる。

この地域は、天平5年(733)編纂の『山雲国風土記』における嶋根郡朝南郷に比定され、古代においては出雲国守から隱岐国への通り道として、駅路や渡しが設けられており、水陸交通や交易の要衝であったとされている。

大井窯跡群の周辺には、古墳時代前期の古墳は存在しない。6世紀以降では、イガラビ古墳群(16)・池ノ奥古墳群(18)などの小規模な横穴式石室を有する古墳群や、石棺式石室を有する大井向山古墳(25)、山朝南小学校校庭古墳(30)、朝酌岩屋古墳(32)がある。薙沢A遺跡(12)、薙沢B遺跡(14)、岩穴平遺跡(15)などは、古墳時代から奈良・平安時代にかけての須恵器工人の集落であったとみられる(今岡1988)。

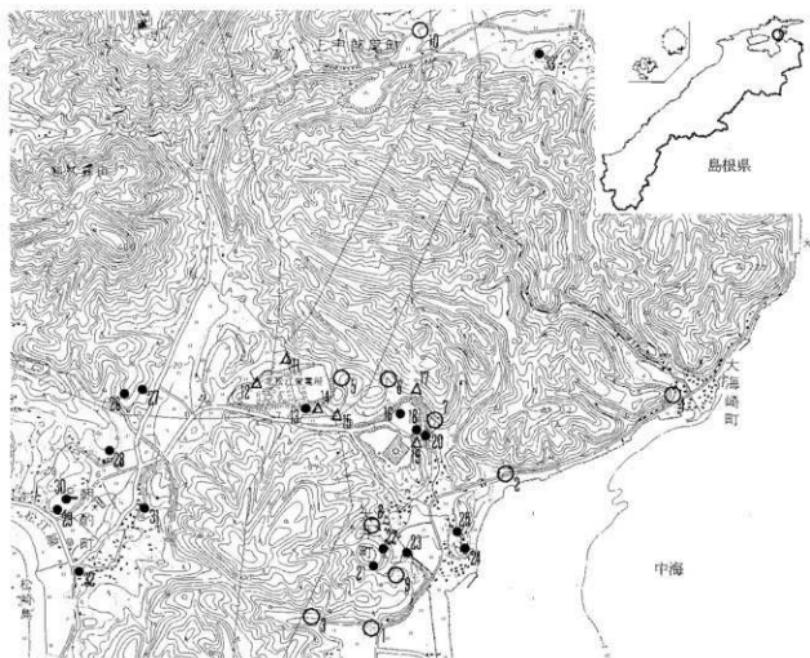
(2) 研究歴史

『山雲国風土記』嶋根郡大井濱の条文中には、「大井の濱 則ち、海鼠・海松あり。又、陶器を造る。」(秋本校注1958)という記述がある。松江市大井町はその遺称地とされ、考古学・文献史学両者により古くから注目されてきた。

大井窯跡群に関する報告は、野津左馬之助・後藤藏四郎両氏の報告を嚆矢とする(野津1926、後藤1934)。野津氏は「岩鹽窯」「山地窯」「唐干窯」など、後藤氏は「岩沙谷の口」「山津」「岩沙谷の奥」「堂免」について報告している。これらの窯は現在の呼称と異なり、ババタケ窯跡(岩鹽窯・岩沙谷の口)、山津窯跡(山地窯・山津)、岩沙窯跡(岩沙谷の奥)、唐干窯跡(唐干窯・堂免)のことである(柳浦1989)。

1960年に山本清氏は、「山陰の須恵器」において山陰の古墳時代を中心とした須恵器編年案を提示し、

2. 大井窯跡群の概要



第1図 大井窯跡群及び周辺遺跡分布図（1:25,000 松江）

1. ババタケ窯跡	2. 山津窯跡	3. 岩沙窯跡	4. 肴子窯跡	5. 勝田谷窯跡	6. 明曾窯跡	7. 他の窯業跡
8. 寺越窯跡	9. 茅谷窯跡	10. 因坂窯跡群	11. 別所窯跡	12. 池ノ奥古墳群	13. 別所古墳	14. 西浜B遺跡
15. 岩穴平遺跡	16. イガラビ古墳群	17. 池ノ奥古墳群	18. 池ノ奥古墳群	19. イガラビ古墳	20. 池ノ奥C遺跡	21. 岩手横穴墓群
22. 前平古墳群	23. 山毛古墳	24. イグキ山古墳群	25. 大井向山古墳	26. 社前便火葬場群	27. 九日富古墳群	28. 鶴原古墳群
29. IH櫻野小学校前古墳	30. 旧州前小学校校庭古墳	31. 鮎削上神引跡古墳群	32. 鮎削岩屋古墳	33. 神川古墳群		

その中で大井窯跡群の資料について触れ、窯跡資料の不足を指摘している。同じ1960年代に、前島己基氏は、唐子窯跡、山津窯跡、ババタケ窯跡、岩沙窯跡で表採された須恵器などについて報告し、初めて大井窯跡群の資料紹介を行った（前島1966）。その翌年、近藤正氏は、山陰における窯業について述べる中で、大井窯跡群の操業期間を6世紀後半から8世紀前半頃と推定した（近藤1967）。また、東森市良氏は、朝酰郷の古墳時代遺跡について述べる中で、岩沙・山津窯跡から出土した須恵器などを紹介し、大井窯跡群とその周辺古墳との関係について論じている（東森1970）。

その後、生産遺跡分布調査の結果、大井窯跡群において新たに廻谷・勝田谷・明曾窯跡などが確認され、大井における須恵器窯の操業開始が山本編年の山陰I期（5世紀後半）にまで遡ることが明らかになった（岡崎1985）。そうした資料をふまえて柳浦俊一氏は、出雲における1～9期の須恵器編年案を作成し、大井窯跡群において6世紀後半以降操業が拡大していき、8世紀中頃に至るまで出雲地方ではほぼ独占的に須恵器生産が行われていたことも指摘した（柳浦1986、岡1989、岡1995）。また、内田律雄氏は、大井窯跡群の須恵器生産について古墳時代有力首長及び国守との関係を指摘した（内山1988・1990）。さらに大谷児二氏は、出雲の古墳時代須恵器を中心とした編年案を提示して、その中で大井窯跡群において生産さ

れた、地域色のみられる須恵器の分布を明らかにした（大谷1994）。

大井窯跡群における発掘調査は、1986年から翌年にかけて池ノ奥窯跡で初めて行われた。窯跡3基が確認され、2基は6世紀末から7世紀前半、1基は9世紀から10世紀代の操業と推定された（昌子・佐々木1990）。

近年では、松江市教育委員会が山津窯跡の発掘調査を行い、4基の窯跡を確認している（岡崎編2003、藤原2006）。この調査を受けて、藤原哲・秦愛子両氏は、窯跡出土資料に基づいた大井窯跡群の須恵器編年案を提示した（藤原・秦2004）。また、藤原氏は山津窯跡の須恵器編年案を作成し、須恵器の製作技術・窯詰め法・工人の移動などについても考察している（藤原2006）。

（三井）

3. 遺物

ここでは、大井窯跡群の表探資料について、パパタケ窯跡、山津窯跡、岩渕窯跡、唐干窯跡、大井窯跡群の順で、器種毎に記述する。なお、資料は窯毎に番号を付し、縮尺はすべて3分の1である。器種の分類は、「大井窯跡群 山津窯跡・山津遺跡発掘調査報告書」（藤原編2006）に準拠した。

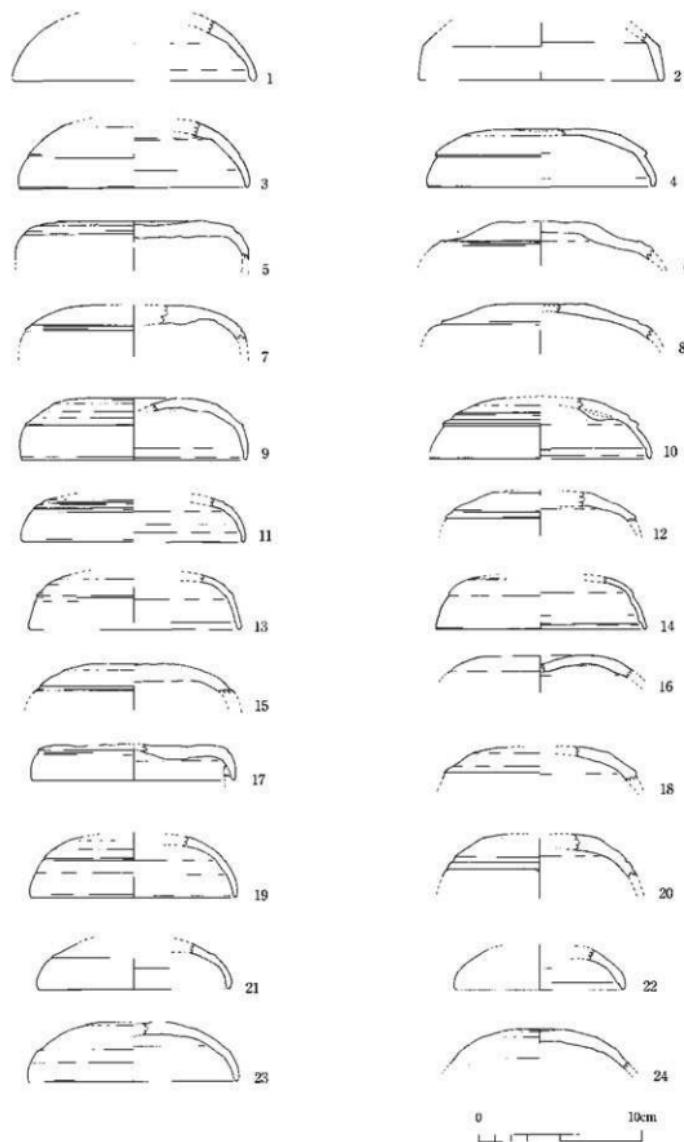
以下に紹介する資料の胎土・焼成・色調は表に記載したが、大井窯跡群において特徴的な点をいくつか挙げると、胎土はクリーム色の粒子を含む資料が多く、高温で焼成されると、その粒子が破裂して黒くなる。焼成は全体的に良好であり、色調はくすんだ黄灰色が多く、青灰色はほとんど確認できない。また、パパタケ窯跡、山津窯跡、岩渕窯跡、唐干窯跡において、窯毎での差異はほとんど認められない。

（1）パパタケ窯跡表探資料

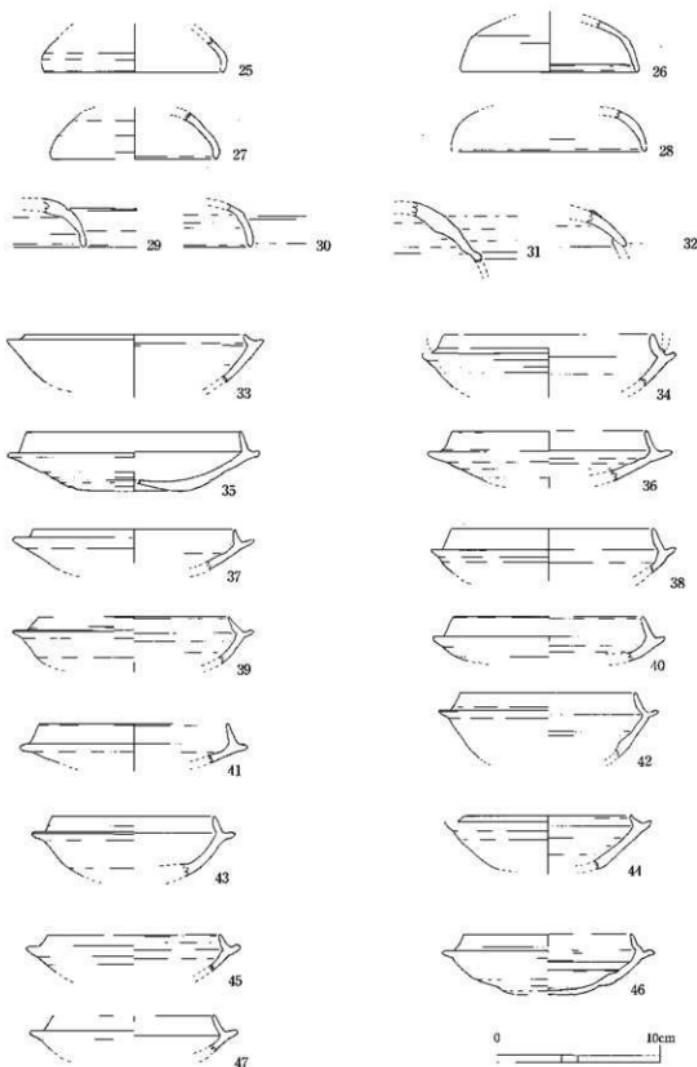
パパタケ窯跡からは、坏H・F・A、塊A、高坏、壺、提瓶、壺、甌、鉢、円面鏡、瓦などが表探されている。

坏H（第2図～第3図・第1表）

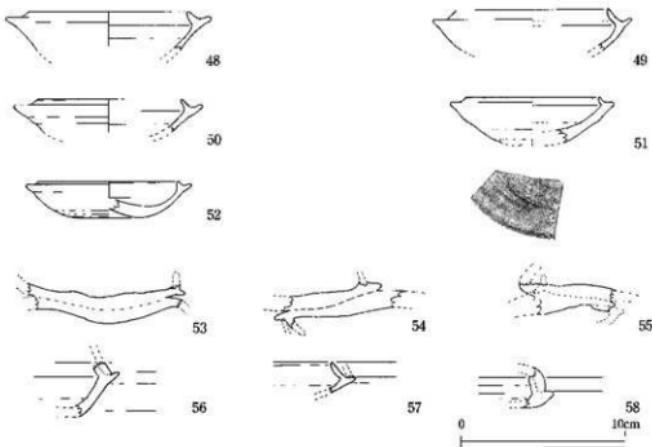
1～32は坏Hの蓋である。内外面とも調整方法は主に回転ナデで、天井部に回転ケズリがみられるものや、天井部内面をヨコナデで調整するものがある。1は天井部を回転ケズリで調整する。2は稜の部分ではっきりと角度が変わり、その部分を境に変色がみられる。3は天井部を回転ケズリで調整する。体部に1条の沈線をめぐらせ、段をつくる。焼き歪みにより、全体的にやや変形する。4は天井部を回転ケズリで調整する。稜と口縁部内面に、ナデによって段をつくる。天井部外面上にはヘラ記号がみられる。5はヘラ切りの後、天井部を回転ケズリで調整する。外向の稜に1条の沈線をめぐらせ、段をつくる。全体的に焼き歪み、天井部が落ち込む。6はヘラ切りの後、天井部を回転ケズリ、天井部内面はヨコナデで調整する。外面の稜には2条の沈線をめぐらせ、段をつくる。焼き歪みのため、天井部の一部が変形する。7は外面の稜に2条の沈線をめぐらせ、段をつくる。内面は火彫による変形が激しい。8は天井部を回転ケズリで調整する。稜に1条の沈線をめぐらせ、段をつくる。全体的にやや焼き歪む。9はヘラ切りの後、回転ケズリと回転ナデで調整する。外面に1条の沈線をめぐらせ、小さく段をつくる。口縁部内面にもナデでゆるく段をつくる。天井部の最上部が焼き歪みにより変形する。10は天井部を回転ケズリで調整する。稜に2条の沈線をめぐらせ、突起状の段をつくる。11は天井部を回転ケズリで調整する。稜に2条の沈線をめぐらせ、段をつくる。12は稜に2条の沈線をめぐらせ、段をつくる。外面全体に自然釉がみられる。13は天井部を回転ケズリで調整する。稜に1条の沈線をめぐらせ、段をつくる。口縁部内面にもナデによって段を1段つくる。14は天井部を回転ケズリで調整する。外面の稜と口縁部内面に1条の沈線をめぐらせ、段をつくる。全体的に薄い。15はヘラ切りの後、回転ケズリで調整する。天井部内面はヨコナデで調



第2図 ババタケ窯跡表採資料1



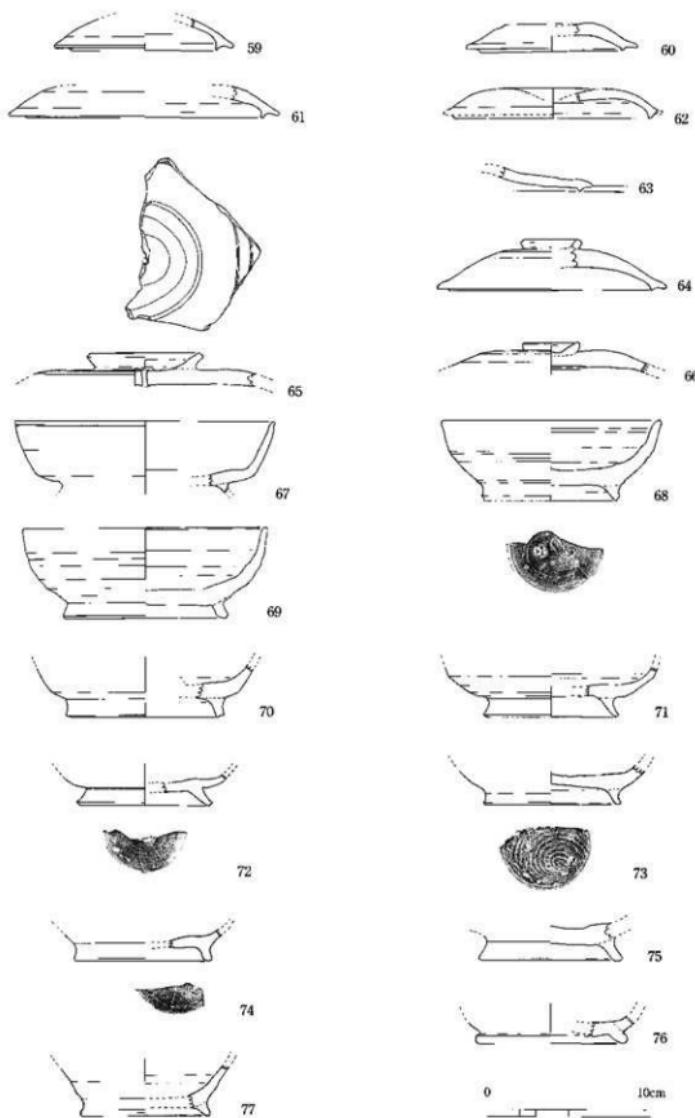
第3図 ババタケ窯跡表探資料2



第4図 ババタケ窯跡表採資料3

整する。外面の稜に1条の沈線をめぐらせ、段をつくる。16は天井部を回転ケズリ、天井部内面をヨコナデで調整する。焼き垂みによる変形で天井部は落ち込み、一部に火彫れもみられる。17は天井部内面をヨコナデで調整する。天井部外面にはヘラ記号がみられるが、被灰のため不明瞭である。稜に沈線を1条めぐらせ、段をつくる。焼き垂みにより天井部が落ち込む。11縁部内面に坏身の立ち上がり端部が溶着する。18は天井部を回転ケズリ、天井部内面をヨコナデで調整する。内面に焼成前に刻まれた長さ約3cmの浅い沈線がみられるが、ヘラ記号は不明である。19は天井部を回転ケズリで調整する。稜に1条の沈線をめぐらせ、小さく段をつくる。外面は全体に被灰がみられる。焼き垂みによって一部が変形する。20は天井部を回転ケズリで調整する。稜に2条の沈線をめぐらせ、段を2段つくる。天井部外面に工具によるハケ目状の条痕がみられる。23は天井部を回転ケズリ、天井部内面をヨコナデで調整する。天井部外面に工具によるハケ目状の条痕がみられる。24はヘラ切りの後、回転ケズリで調整する。25は口縁部内面にナデでゆるく段をつくる。26は外面全体に被灰がみられる。27は内面の調整がやや粗く、全体的に少し焼き垂む。28は口縁部内面にナデでゆるく段をつくる。29は外面の後に沈線を1条めぐらせ、段をつくる。口縁部内面にもナデによってゆるく段をつくる。外面全体に被灰がみられる。30は外面の稜に沈線を1条めぐらせ、段をつくる。焼き垂みにより全体的に変形する。31は天井部を回転ケズリで調整する。外面の一部に被灰がみられる。32は天井部に被灰がみられ、他の須恵器片が溶着する。口縁部内面には、坏身の立ち上がり端部が溶着する。

33~52は坏Hの身である。底部の切り離しはヘラ切りで、内外面とも調整方法は主に回転ナデである。33の立ち上がりは低めで内傾する。受け部は厚くずんぐりしている。外面の体部全体に被灰がみられる。34は蓋の端部が溶着しており、蓋と身をセットで焼成している。体部外面全体に被灰がみられる。35はヘラ切りの後、底部を回転ケズリ、底部内面をヨコナデで調整する。底部はかなり薄い。36は底部を回転ケズリで調整する。38の立ち上がりはやや低く、焼き垂みにより少し変形する。外面全体に被灰がみられる。39は底部内面をヨコナデで調整する。受け部のみに被灰があり、蓋と身のセットを正位で焼成したとみられる。42は立ち上がりが高く、内傾する。受け部はやや上向きで、薄く短い。焼き垂みによりやや変形する。43は体部外面全体に被灰がみられる。44は焼き垂みによりやや変形する。45は外面の一部に被灰がみ



第5図 ババタケ窯跡表探資料 4



第6図 ババタケ窯跡発掘資料5

られる。46はヘラ切りの後、回転ケズリで調整する。底部内面はヨコナデで調整する。立ち上がりの途中でやや角度が変わり、口脣部では垂直に近い。48は受け部の一部に薄く被灰がみられ、蓋と身のセットを正位で焼成している。49は体部外面全体に被灰がみられる。51は底部を回転ケズリで調整する。体部外面にヘラ記号がみられる。52は底部を回転ケズリで調整する。

53~58は坏Hの溶着例である。基本的に蓋と身をセットで焼成している。53は上が坏身で下が坏蓋の溶着例である。54は坏身が正位と逆位で溶着し、上の坏身受け部には坏蓋端部が溶着し、底部外面には工具によるハケ目状の条痕がみられる。55は、上から坏蓋端部、坏身、坏蓋、坏身立ち上がりの順で重なって溶着している。56~58は坏身と坏蓋が溶着している。

坏G・F (第5図・第1表)

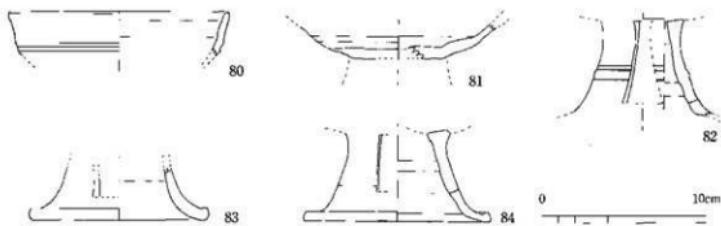
59・60は口径から推定して、坏Gの蓋である。59は外面全体に被灰がみられる。60はカエリの外側と天井部外面の全体に薄く自然釉がみられる。

61~66は坏Fの蓋である。つまみはすべて輪状つまみである。調整方法は主に回転ナデで、天井部に回転ケズリがみられるものや、天井部内面をヨコナデで調整するものもある。61は外面に工具によるハケ目状の条痕がみられる。62は天井部内面をヨコナデで調整する。焼き歪みにより、天井部が落ち込む。63の天井部は回転ケズリで調整する。内面に身の端部が溶着した跡があり、蓋と身のセットで焼成したとみられる。64は天井部を回転ケズリ、天井部内面をヨコナデで調整する。天井部外面に1条の沈線をめぐらせる。口縁部外面の外縁のみに被灰がある。65は天井部内面をヨコナデで調整する。天井部外面に2条の沈線をめぐらせる。天井部中央に、焼成前に工具を差し込んで開けた直径約5mmの穴がある。外面全体に被灰と、一部に自然釉がみられる。66はヘラ切りの後、つまみを取り付け、回転ケズリと回転ナデで調整する。外面全体に自然釉が薄くみられる。

67~77は坏Fの身である。底部の切り離しはヘラ切りと糸切りの両方がみられる。調整方法は主に回転ナデである。67はヘラ切りの後、高台を取り付けナデで調整する。口縁部外面に沈線を1条めぐらせる。68の切り離しは、全面にヨコナデを「車」に施しているため不明であり、底部内面をヨコナデで調整する。底部の中央付近に、十字状の押刻がみられる。同種の押刻例は、山津窯跡でも出土している（藤原編2006、77頁）。大井窯跡に特有のものか。69・70は外面の一部に自然釉がみられる。71はヘラ切りの後、高台を取り付け、回転ケズリで調整する。外面の一部に被灰がみられる。72はヘラ切りの後、高台を取り付けナデで調整する。底部外面にヘラ記号の一部がみられる。73は回転糸切りの後、高台を取り付け、ナデで調整する。74はヘラ切りの後、高台を取り付け、ナデで調整する。底部外面にヘラ記号の一部がみられる。75は底部破片で、ヘラ切りの後、高台を取り付けナデで調整する。外面の一部に薄く被灰がみられる。76は坏Fの高台部分としたが、壺の底部の可能性もある。底部はヘラ切りの後、高台を取り付け、ナデで調整する。外面全体に被灰がみられる。

塊A・坏A (第6図・第1表)

78は塊Aである。回転糸切りの後、回転ケズリで調整する。



第7図 ババタケ窯跡調査資料 6

79は环Aである。ヘラ切りの後、ナデで調整する。底部内面はヨコナデで調整する。

高坏 (第7図・第1表)

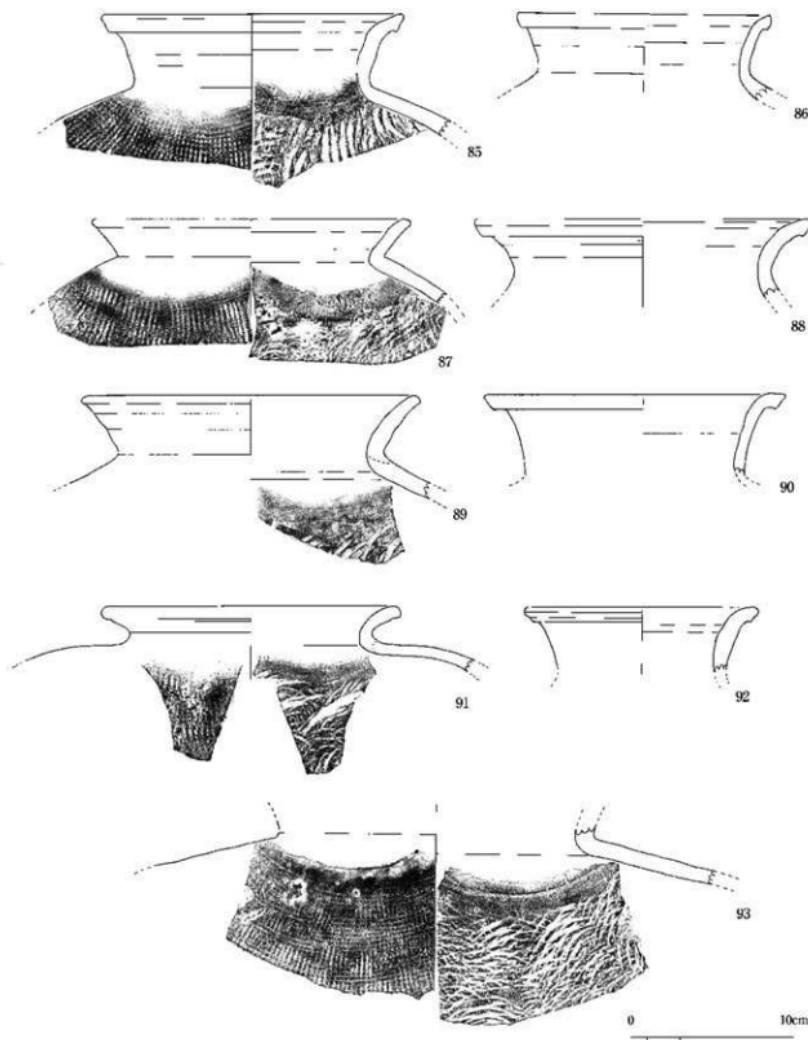
80・81は高坏の坏部である。82~84は高坏の脚部である。80は内外面ともにナデで調整し、体部に沈線を1条めぐらせる。81は底部付近をケズリ、体部外面と内面をナデで調整する。底部の脚部との接合部に、脚部の接合を強化するための沈線がみられる。82は脚端部を欠く破片である。2条の沈線をめぐらせ、1段2方向の長方形透かしがある。83は内外面ともにナデ調整である。形状不明の1段2方向透かしがある。外面全体に自然軸が確認できるほか、内面にも脚端部付近に被灰が見られる。84は内外面ともにナデで調整する。形状不明の2方向透かし（もしくは切り込み）がある。

壺 (第8~13図・第1表)

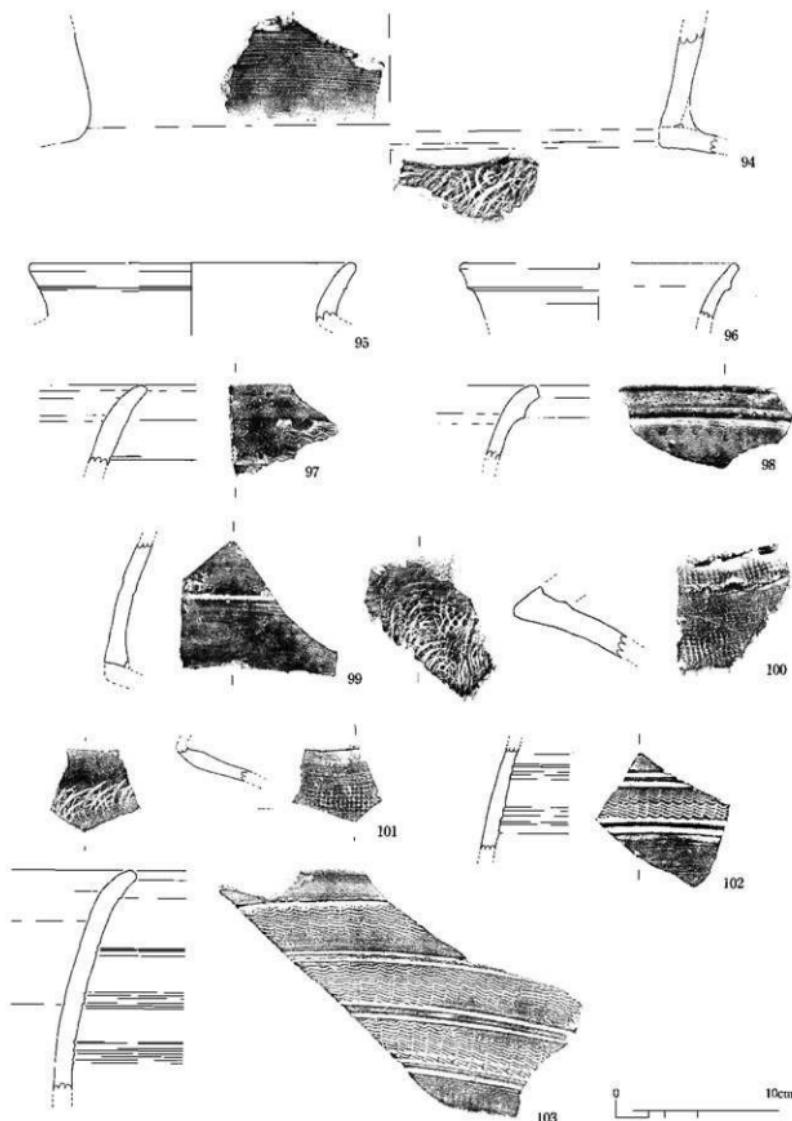
85~109は壺の口縁部、肩部である。85は体部を平行タタキで調整する。87は体部を平行タタキで調整する。内外面に被灰がみられる。89の肩部内面には青海波文がみられるが、外側は被灰が激しくタタキの痕跡が確認できない。91の体部外面は平行タタキで調整し、内面には青海波文がみられる。内外面に被灰がみられる。92は内外面に被灰がみられる。93の外面は平行タタキ目文の上からカキ目調整を行う。外面に被灰がみられる。94は肩部と口縁部の貼り付け部に空隙がある。口縁部外面はカキ目、内面は回転ナデで調整する。95は外面上に1条の沈線をめぐらせる。外面全体に自然軸がみられる。96は外面に被灰がみられる。97は内外面ともに自然軸がみられ、波状文が不鮮明である。断面にも一部に自然軸が付着する。98は外面上に波状文を施す。99は外面を回転ナデで調整後、沈線をめぐらせ、その上に波状文を施す。100の外面は平行タタキで調整し、口縁部剥離面にもタタキがある。内面には青海波文がみられる。101の外面上は平行タタキ後、カキ目調整を施す。内面に青海波文がみられる。102は外面に沈線をめぐらせ、波状文を施す。103は外面に沈線と波状文を施す。口径は不明だが、かなり大型とみられる。104は外面に沈線をめぐらせ、その上下に波状文を施す。105は沈線と波状文を施す。106は自然軸により調整が不明である。沈線をめぐらせた後、波状文を施す。105~106の波状文は太い。施工具が沈線と同一とみられる。107は波状文と沈線をめぐらせ、その沈線の上に径約1.2cmの円形浮文を貼り付ける。108は沈線と波状文を施す。109は外面を回転ナデで調整後に波状文を施す。

110~130は壺の胴部である。すべてが平行タタキで調整され、内面に青海波文がみられる。110は内面の青海波文が一部つぶれている。111は外面上に浅いカキ目がみられる。113は内面の青海波文がかなり深い。115は内面の青海波文の上にカキ目が確認できる。117~118は外面上にカキ目がみられる。119は外面上に自然軸が厚く付着する。124~126は外面上にカキ目がみられる。128は内面の青海波文の上にカキ目が確認できる。130は内面に指ナデ状の圧痕が確認できる。

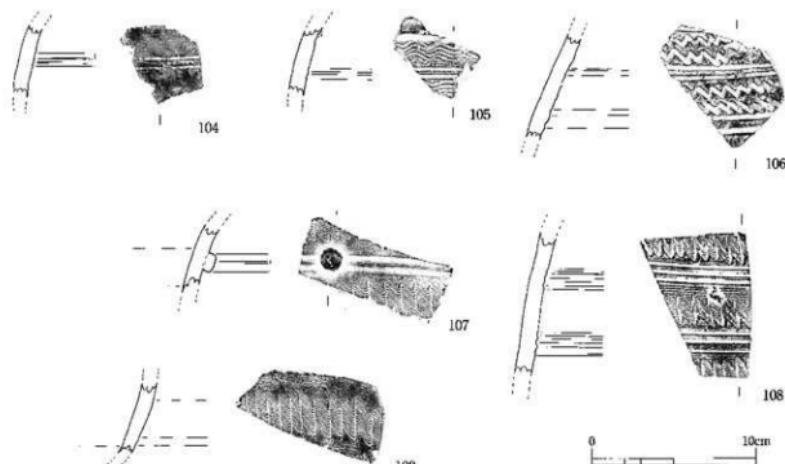
131~136は置き台として使用された壺の破片である。131は外面上に円形の被灰がみられる。132は壺など3片の須恵器が接着している。133は外面上に器種不明の須恵器が接着している。134の外面上には円形に2つ



第8図 ババタケ窯跡表採資料 7



第9図 ババタケ窯跡表探資料 8



第10図 ババタケ窯跡表探資料 9

の剥離痕が確認でき、複数回使用されている。135は壺の破片で、同じく壺の胴部と考えられる破片と、器種不明の須恵器が溶着している。136は壺が溶着している。

その他（第14図・第1表）

137・138は提板である。137は体部破片で、カキ目調整がみられる。138は肩部破片である。内面に当て具痕が認められる。

139は壺の底部である。外側はケズリ調整、内面は強いナデ調整である。内面底部付近に被灰が確認できる。

140・141は蓋である。140は縫部破片である。内外面ともにナデ調整である。外側には2条の沈線をめぐらせ、その上部に波状文を施す。内外面全体に自然釉が付着している。141は体部破片で、底部付近がケズリ、それ以外がナデ調整である。沈線の上部に列点文を施す。外側全体に被灰がみられる。

142は器種不明の口縁部である。内外面ともにナデ調整であり、非常に薄手である。割れ口に窓壁の小片が付着している。

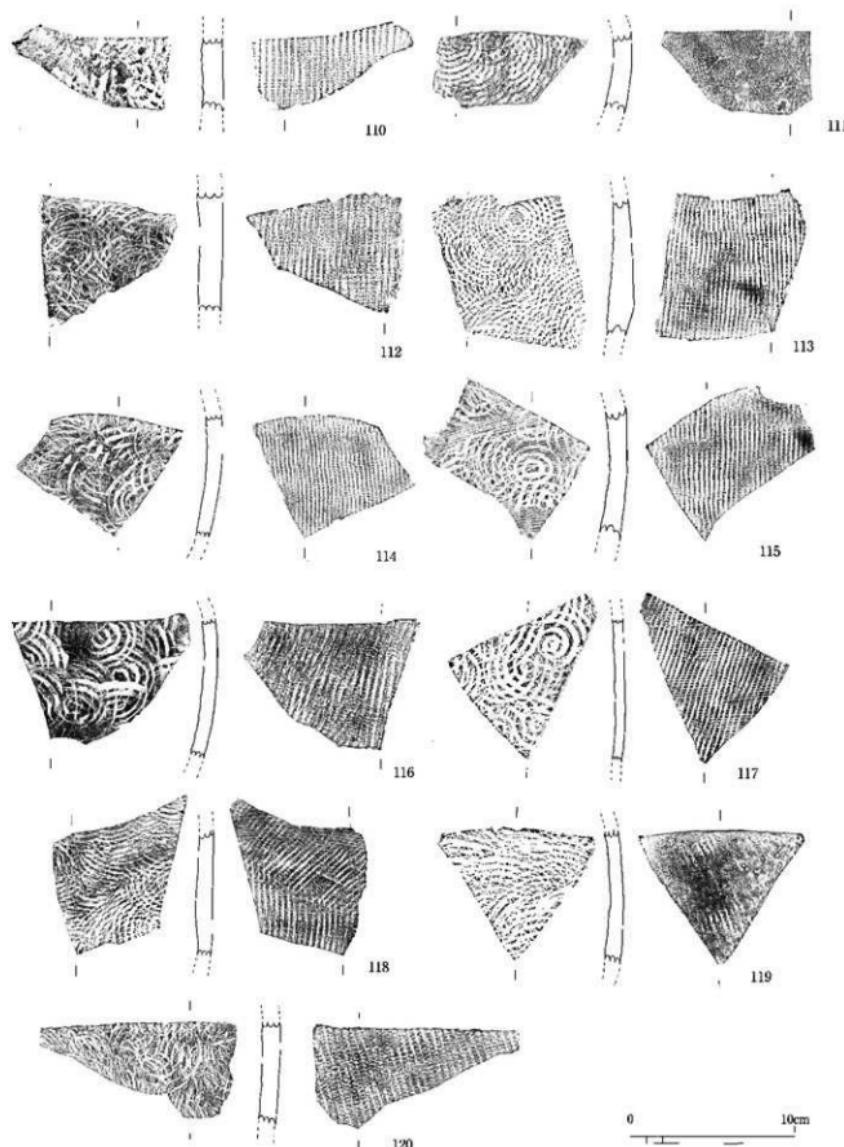
143は鉢の口縁部破片である。口縁部付近がナデ、外側はタタキ調整で内面には青海波文がみられる。

144は器種不明の破片である。外側は端部付近まで平行タタキがあり、内面も端部付近まで当て具痕がみられる。内外面全体に被灰がある。

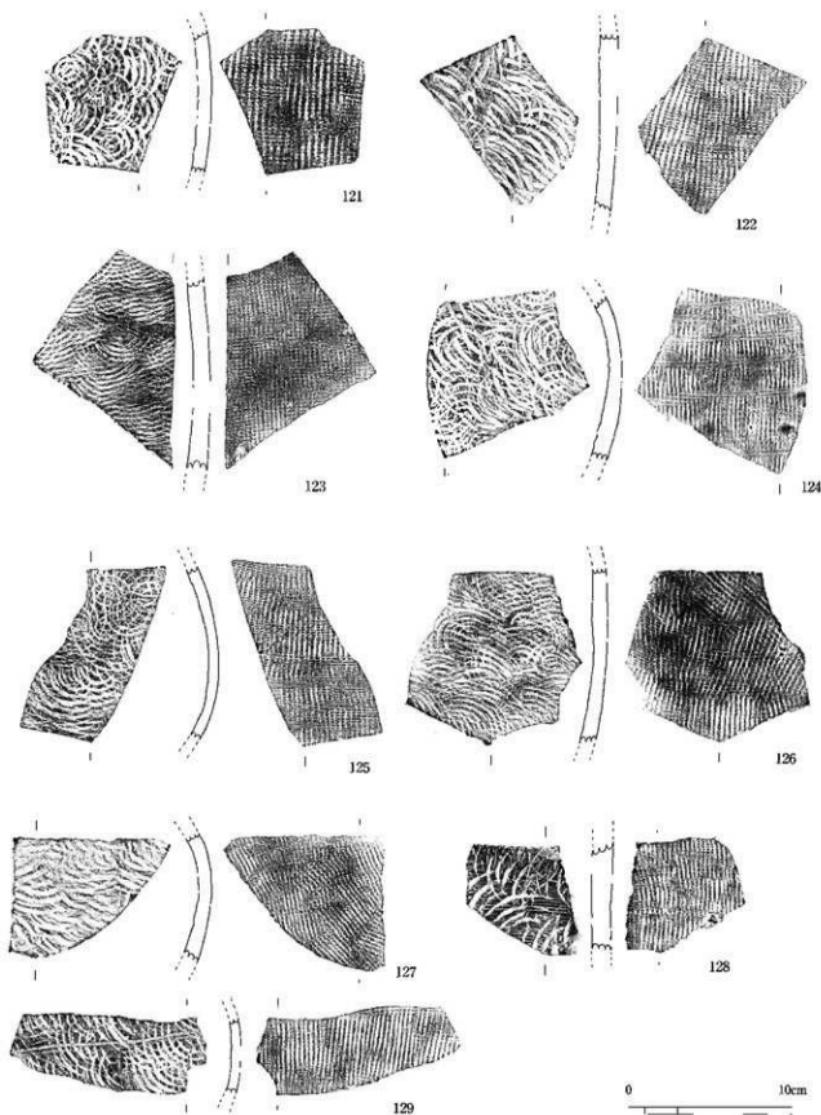
145は円面鏡の可能性がある。外側は全面を回転ケズリ、内面をナデで調整する。底部に環状の切り込みがある。

146は器種不明の口縁部小片である。内外面ともナデを施すが、粘土紐の巻き上げ痕がみられ、かなり粗い作りである。

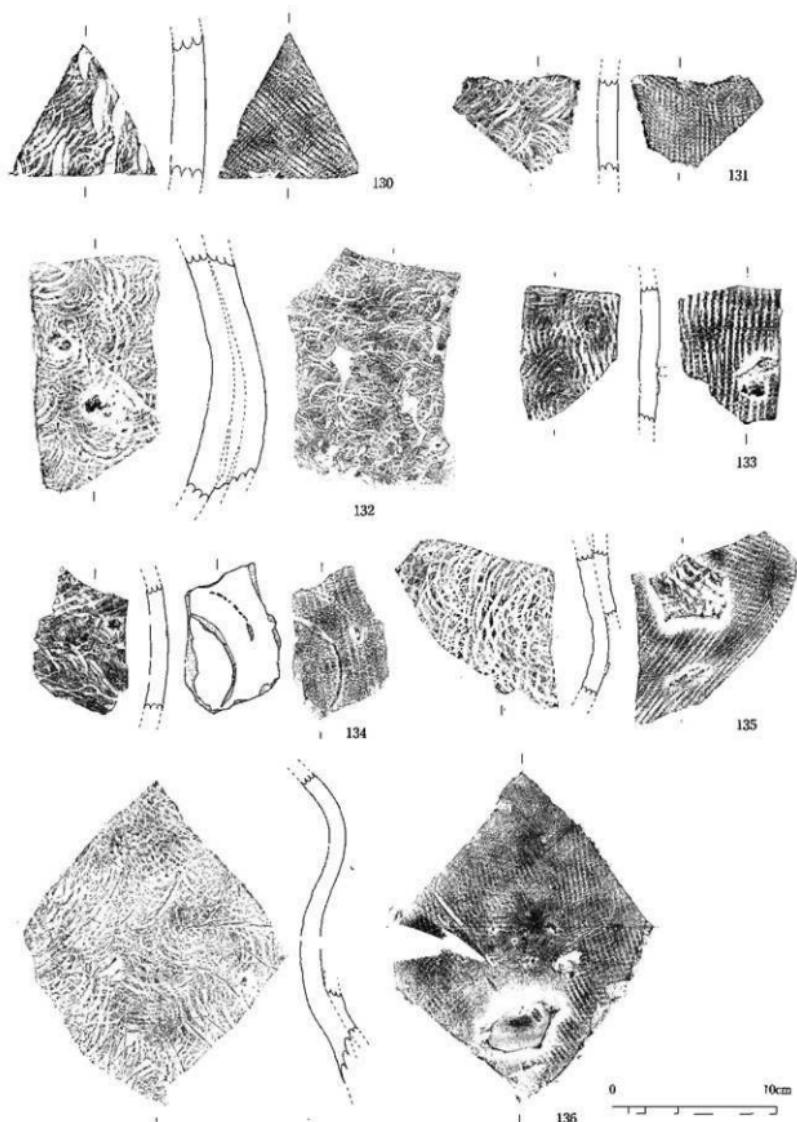
147は平瓦である。凸面は糸切り痕跡を明瞭に残し、凹面を強くケズリ、布目が部分的に残る。枠板痕跡があり、桶巻作りである。焼成は良好で須恵質である。



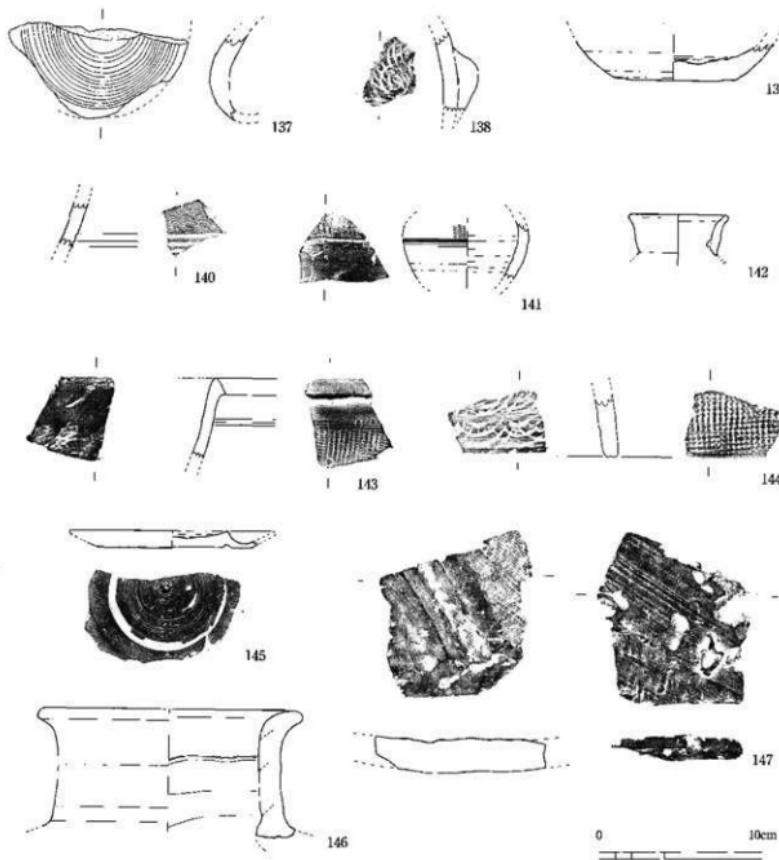
第11図 ババタケ窯跡表探資料10



第12図 ババタケ窯跡表採資料11



第13図 ババタケ窯跡表探資料12



第14図 ババタケ窯跡表探資料13

(2) 山津窯跡表探資料

山津窯跡からは、壺H・G・F・E・B、塊A、皿F・B・A、高壺、甕、瓶、器台、窯道具が表探されている。
壺H（第15図・第2表）

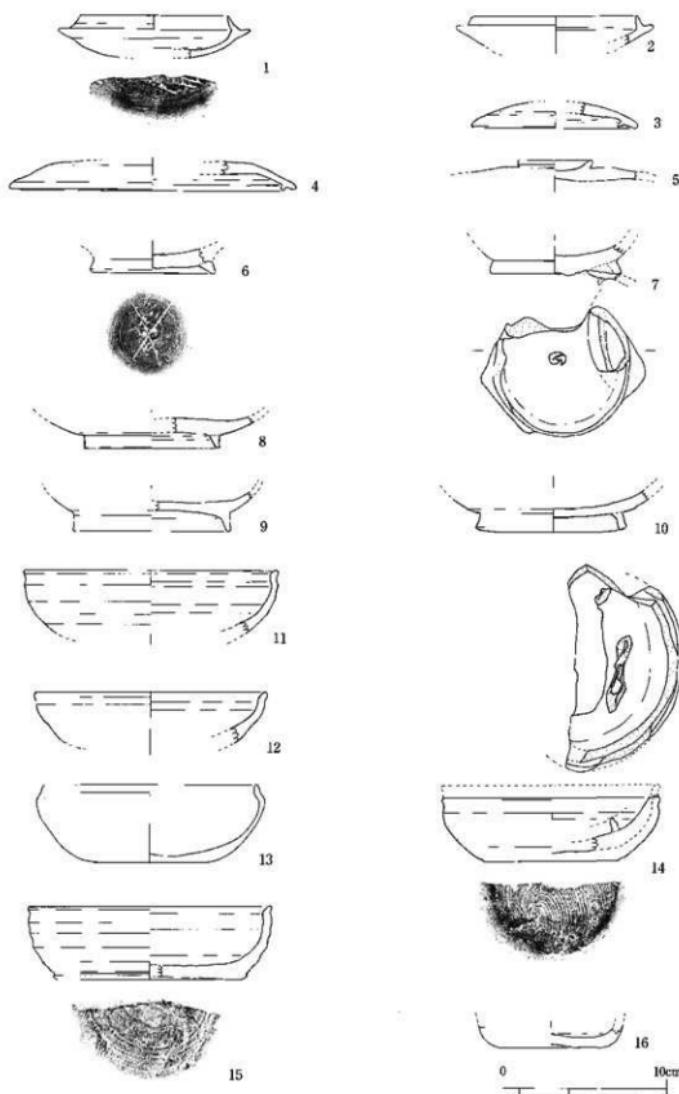
1・2は壺Hの身である。1はヘラ切りの後、回転ケズリと回転ナデで調整する。底部外面に工具によるハケ口状の条痕があり、全体に被灰がみられる。2は外面全体に薄く自然釉が付着する。

壺G（第15図・第2表）

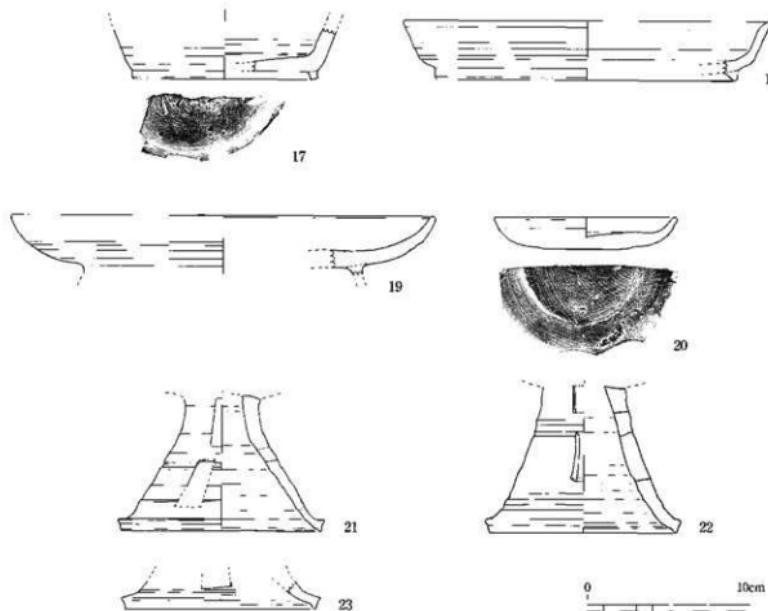
3は口径から考えて壺Gの蓋である。大井部を回転ケズリで調整し、内面の一部に被灰がみられる。

塊F（第15図・第2表）

4・5は壺Fの蓋である。4は天井部内面をヨコナデで調整する。外面全体に被灰があり、一部には変



第15図 山津窯跡表採資料 1



第16図 山津窯跡表採資料 2

色もみられる。5は天井部小片で、つまみは輪状つまみである。天井部は回転ケズリで調整し、一部に被灰がみられる。

6～10は壺Fの身である。調整方法は主に回転ナデである。6は底部小片で、ヘラ切りである。外面にヘラ記号がみられる。7はヘラ切りの後、高台を取り付けナデで調整する。高台にカエリをもつ壺Fの蓋が溶着する。8はヘラ切りの後、ナデで丁寧に調整する。9は内面に円形に被灰がない部分がみられる。10は底部内面をヨコナデで調整する。全体的にやや焼き重む。

塊A（第15図・第2表）

11～15は塊Aである。11は断面にも被灰がみられ、二次焼成を受けている。14は塊が三つ重なった状態で溶着している。回転糸切りで、内外面ともに回転ナデで調整する。15は回転糸切りの後、ナデで調整する。

塊B・他（第15・16図・第2表）

16は壺の底部とみられる小片で、回転糸切の後、丁寧にナデで調整する。

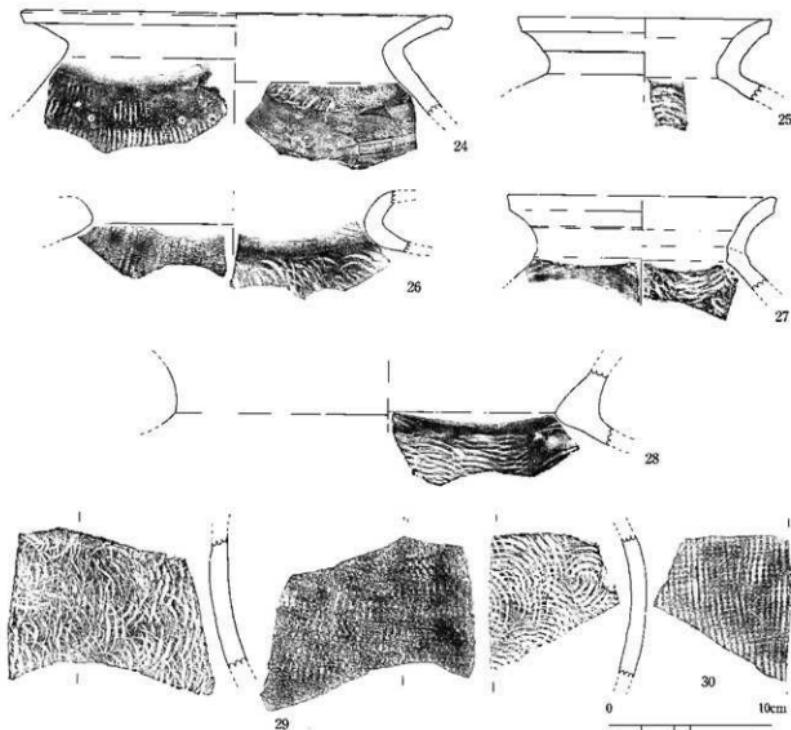
17は壺Bである。ヘラ切りで、外面全体に被灰がみられる。

皿B・F・A（第16図・第2表）

18は皿Fである。19は皿Bである。20は皿Aである。20はかなり雑な回転糸切りで、底部周縁を回転ケズリ、底部内面はヨコナデで調整する。全体的にやや焼き重む。

高壺（第16図・第2表）

21～23は高壺の脚部である。21は内外面ともに回転ナデ調整である。沈線を外面に1条ずつめぐらせ、2段2方向透かしである。22は内外面ともに回転ナデ調整である。外面に沈線を2条ずつ上下にめぐらせ、



第17図 山津窯跡表探資料 3

2段2方向透かしである。外面全体に被灰がみられる。23は高坏の脚端部である。内外面ともに回転ナデ調整で、形状不明の透かしがある。外面に自然釉の付着がみられる。

壺（第17図・第2表）

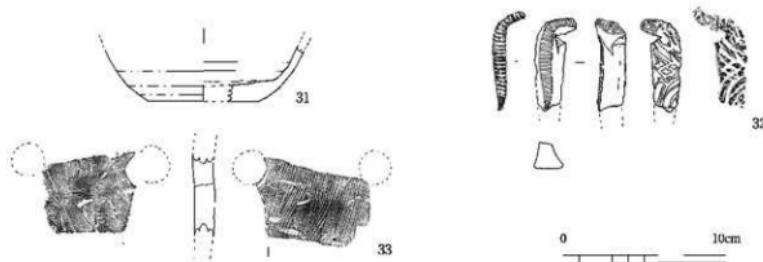
24~28は壺の口縁部である。24は肩部外面を平行タタキで調整し、内面は青海波文を丁寧にナデ消している。25は肩部内面に青海波文がみられる。26は肩部外面を平行タタキで調整し、内面には青海波文がみられる。内外面に被灰がみられる。27は肩部内面に青海波文がみられ、内外面全体に自然釉が付着している。28は内面の肩部に青海波文がみられる。

29~30は壺の胴部である。29の外面は平行タタキの後ナデで調整する。全体的に焼き重む。30は外面を平行タタキで調整する。

その他（第18図・第2表）

31は瓶の底部である。底部外面は回転ケズリ、内面は回転ナデで調整する。底部内面に自然釉が付着する。

32は壺の切りくずを利用した窯道具（焼き台）である。タタキ痕の凹凸、青海波文が残る。33は器台もしくは焼き台である。外面全体をハケ目で調整後、一部をなでる。内面はナデで調整する。



第18図 山津窯跡表採資料 4

(3) 岩汐窯跡表採資料

岩汐窯跡からは、坏H・F、高坏、甕、陶棺が表採されている。

坏H（第19図・第3表）

1～3は坏Hの溶着例である。1は蓋と身のセットを上から逆位、逆位、正位で重ねている。全体が焼き歪む。2は坏Hと器種不明の須恵器が溶着している。底部は回転ケズリで調整する。内面には窯壁と黒い溶解物が付着している。内外面ともに被灰と自然釉がみられ、二次焼成を受けている。受け部に坏蓋端部の跡があり、蓋と身のセットで焼成したとみられる。3は坏身、坏蓋、甕が溶着している。坏身受け部に坏蓋端部が溶着し、底部には蓋と身の端部が溶着している。

坏F（第19図・第3表）

4は坏Fの身である。内外面ともに回転ナデで調整し、底部外面にヘラ記号がみられる。

高坏（第19図・第3表）

5・6は高坏である。5は外面向転ケズリと回転ナデで、内面向転ナデで調整している。脚部に2方向透かしがあり、坏部外面に径2～3mm、深さ5mmの貫通していない穴がある。坏部内面には円形に被灰がない部分があり、高坏などを重ね焼きした痕跡とみられる。

6は焼き歪み、受け部に重ね焼きした坏蓋が溶着している。

甕（第20図・第3表）

7は甕の口縁部である。外面には沈線を2本めぐらせ、その間に波状文を施す。8～10は甕の胴部である。いずれも外面向平行タキで調整し、内面には青海波文がみられる。

陶棺（第20図・第3表）

11は陶棺である。外面に竹管文を施した後、突帯を取り付け、タキによって調整する。内面は青海波文の上からナデで調整する。この資料はすでに陶棺の蓋破片として報告されている（岡崎・瀬古1990、478頁）。

(4) 唐干窯跡表採資料

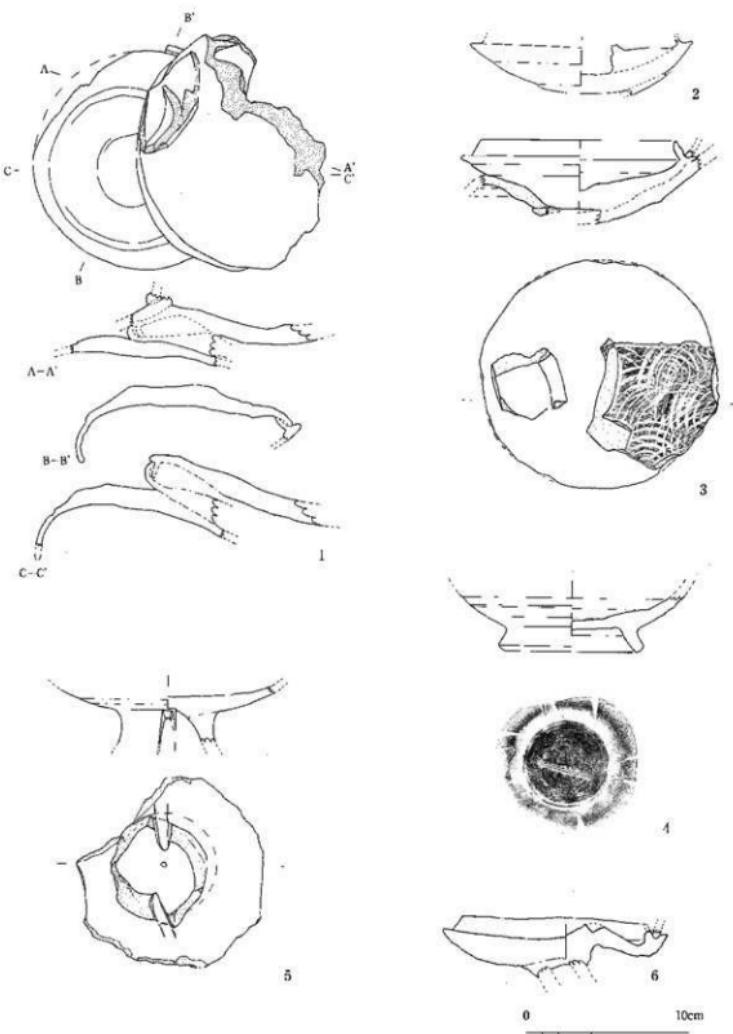
唐干窯跡からは、坏F、甕が表採されている。

坏F（第21図・第4表）

1は坏Fの身である。全体的に焼き歪み、特に高台部分は著しく変形している。

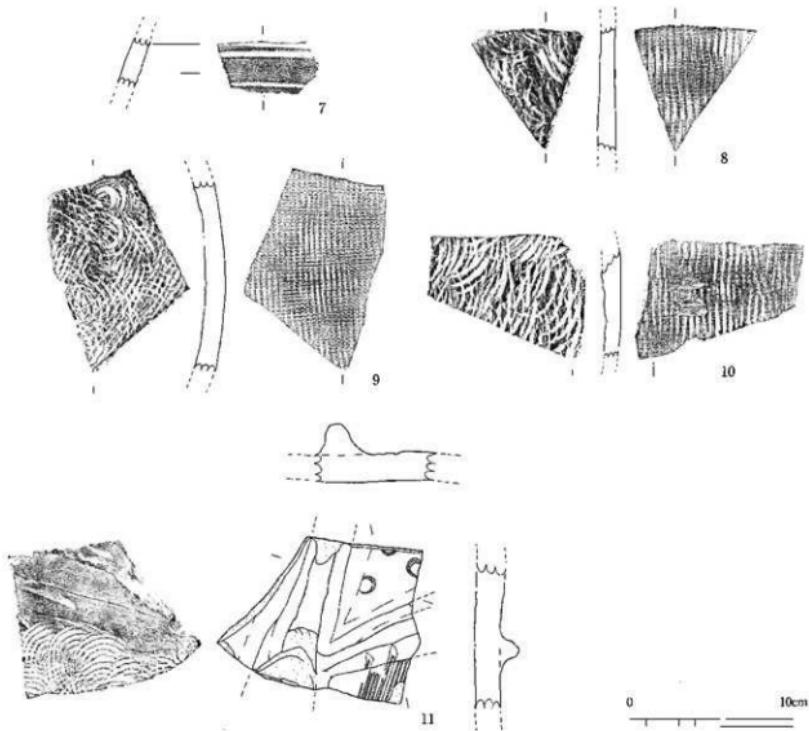
甕（第21図・第4表）

2・3は甕の口縁部である。2の肩部内面には當て具痕がみられる。口縁部内面全体に自然釉が付着している。3は外面に沈線を1条めぐらせ、その上下に波状文を施す。内外面全体に被灰がみられる。



第19図 岩汐窯跡査探資料 1

4～9は壺の胴部である。4は壺の溶着資料である。5～9はいずれも外面の調整は平行タタキ、内面には青海波文がみられる。9には内面にナデの痕跡が確認できる。



第20図 岩汐窯跡表探資料2

(5) 大井窯跡群表探資料

大井窯跡採集と注記はあるが、窯の位置が特定できない資料であり、ここではその中でも特徴的なものを紹介する。なお、2については注記がなく出土地不明であるが、溶着状態や胎土などから大井窯跡群産と推定した。

壊F (第22図・第5表)

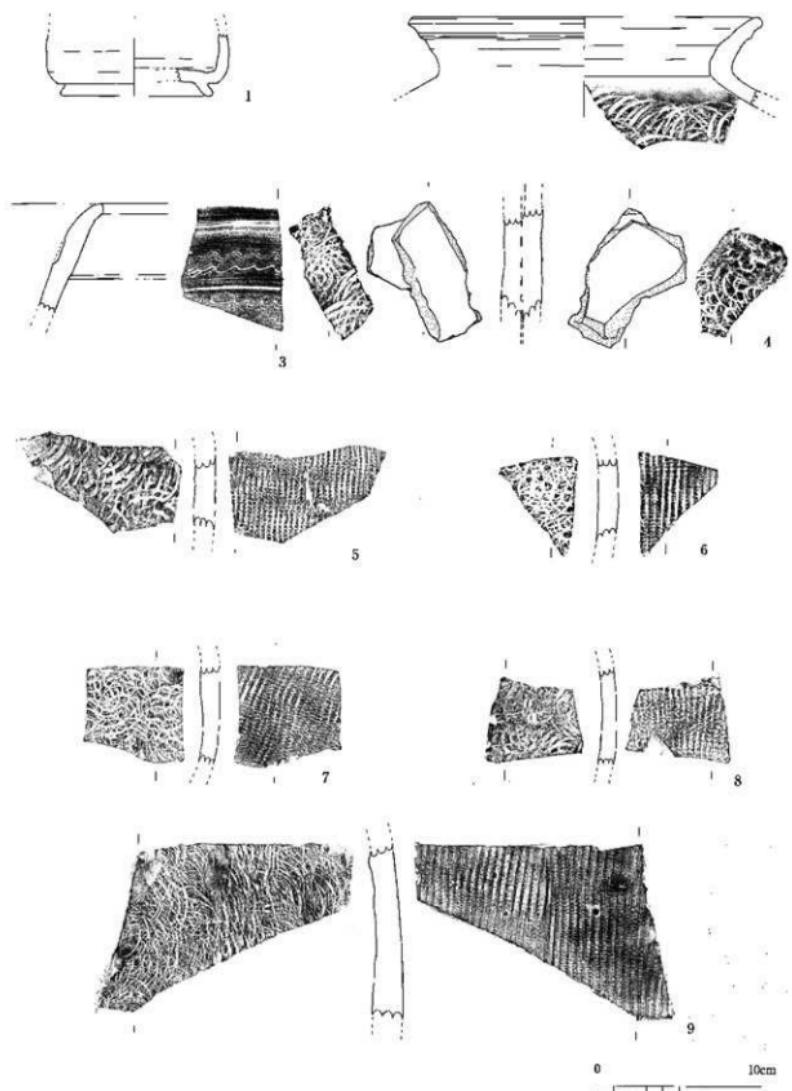
1は壊Fの溶着例である。1は蓋が三つ重なって溶着している。内外面ともに回転ナデで調整する。

塊A (第22図・第5表)

2～4は塊Aの溶着例である。2は身が五つ重なって溶着している。内外面ともに回転ナデで調整する。一番上の底部内面には2条の沈線をめぐらせる。上から四番目の塊の底部は焼き歪みにより著しく変形しているが、切り離しは回転糸切りである。3は身が二つ重なって溶着している。内外面ともに回転ナデで調整する。下の塊の外面には変色があり、さらに塊が重なっていたとみられる。4は身が三つ重なって溶着している。内面は回転ナデで調整する。

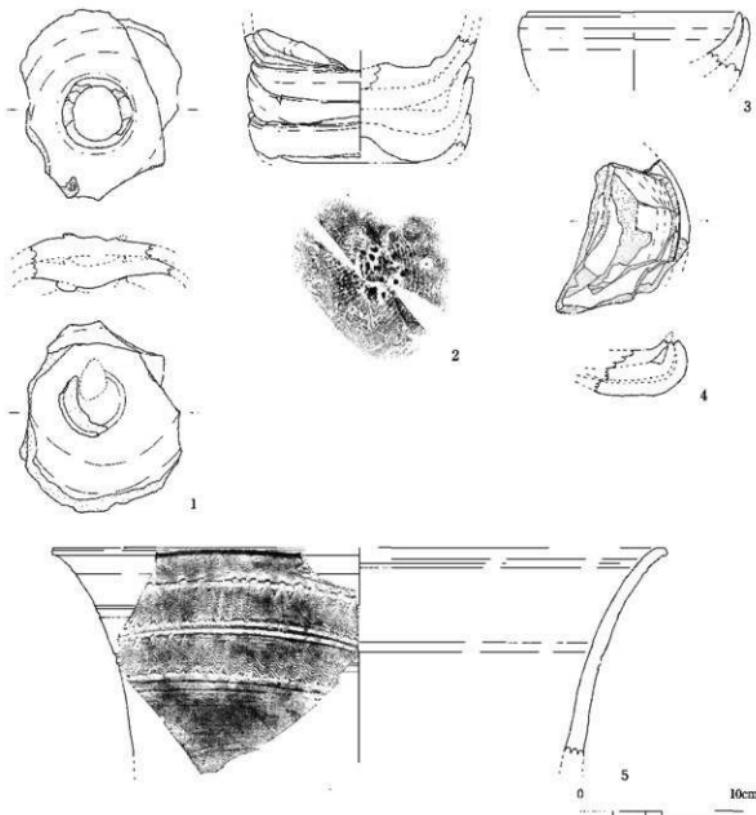
壺 (第22図・第5表)

5は壺の口縁部である。外面には沈線を2条ずつ、2列めぐらせ、その間に波状文を施す。口縁部付近



第21図 唐干窯跡表探資料

3. 遺物



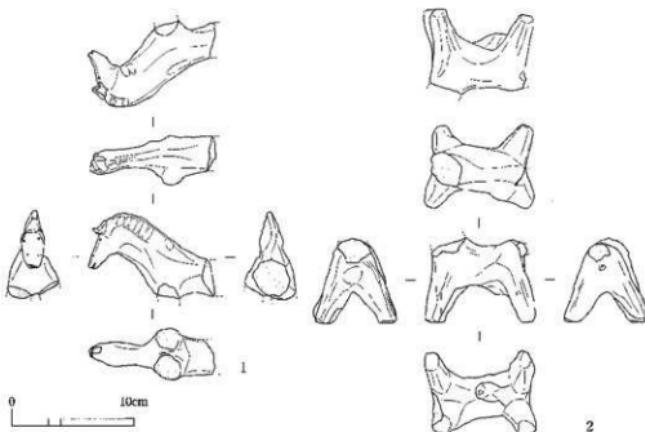
第22図 大井窯跡群表探資料他

には、波状文を施した口具端部の跡とみられるへこみがある。

土馬（第23図）

鳥根大学では十馬を2点保管している。1は注記がなく出土地不明で参考資料として掲載した。裸馬の頭部破片で口・鼻を刺突で表現し、口はヘラ状工具で横方向にわずかに切り込み、たてがみ先端は粘土を別に貼り付けて作る。須恵質で焼成は良く、ややくすんだ灰色を呈する。2は大井窯跡探集資料で、「大井漬池 野津門□□□（本義郎氏カ）」と注記されている。頭部と尻尾を欠く裸馬である。男性器は腹部粘土をつまみあげて一体で作り、尿道孔・肛門を刺突で表現する。表面を丁寧にヘラケズリとナデで平滑に仕上げる。焼成は普通で灰白色を呈する。

（志賀・原）



第23図 土馬

4. 窯詰め法

今回紹介した資料の中には、溶着や被灰・変色によって窯詰めの状況が分かるものがある。ここでは、ババタケ窯跡、山津窯跡、岩汐窯跡、大井窯跡群の順に述べる。なお、唐土窯跡は窯詰めが分かる資料がなかった。

(1) ババタケ窯跡表探資料（第24図）

坏H

坏Hは、ババタケ窯跡表探資料の中では溶着や被灰・変色がもっとも多い。まず、坏Hはすべて蓋と身のセットで溶着している（32・53～58）。54は、蓋を上にした正位のセット、身を上にした逆位のセットを一緒に重ねている。また、溶着資料以外でも、蓋の外面に被灰があり正位詰めとみられる資料（17・19・26・29）と、身の部外外面に被灰があり逆位詰めとみられる資料（33・38・39・43・49）があり、坏Hは蓋と身のセットを正位と逆位に置いた二通りの窯詰めが認められる。

坏G

蓋の被灰資料が1点（59）ある。外面に被灰がみられ、正位詰めである。

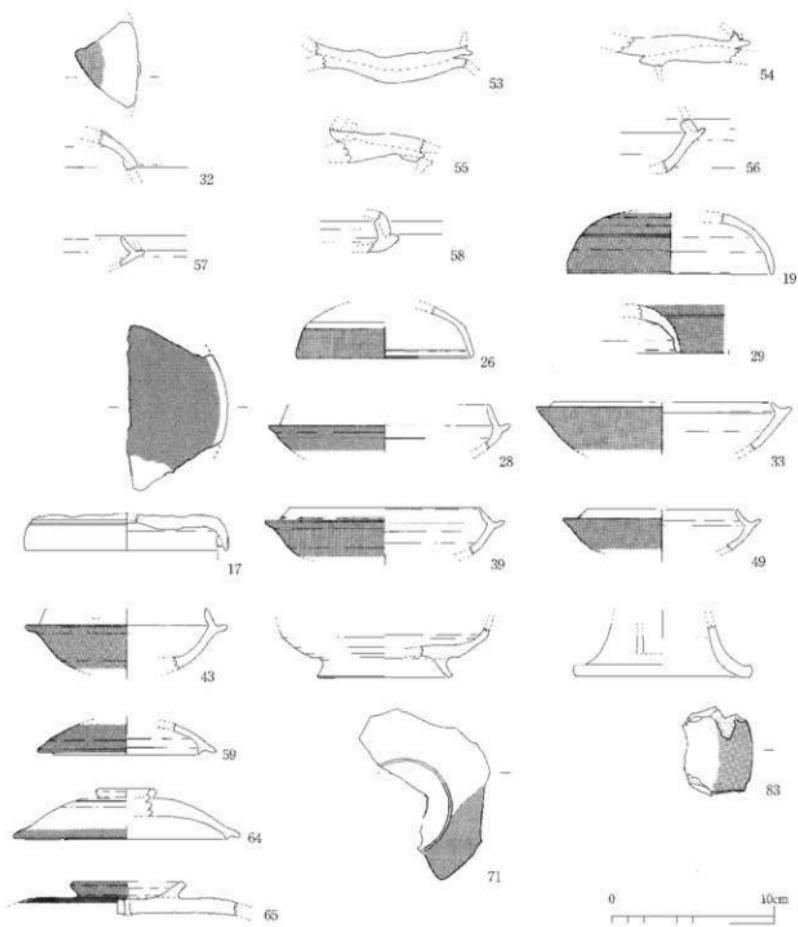
坏F

蓋の被灰資料が2点（64・65）、身の被灰資料が1点（71）ある。蓋の64・65は、どちらも外面に被灰がみられ、正位詰めである。64は、蓋の外縁部のみに被灰が認められる。身の71は、外面に被灰がみられ、逆位詰めである。

窯坏

被灰がみられる資料が1点（83）ある。被灰は脚部の内面と外面の一部にみられ、逆位詰めの可能性がある。

4. 実詰法



第24図 ババタケ窯跡被灰・溶着資料

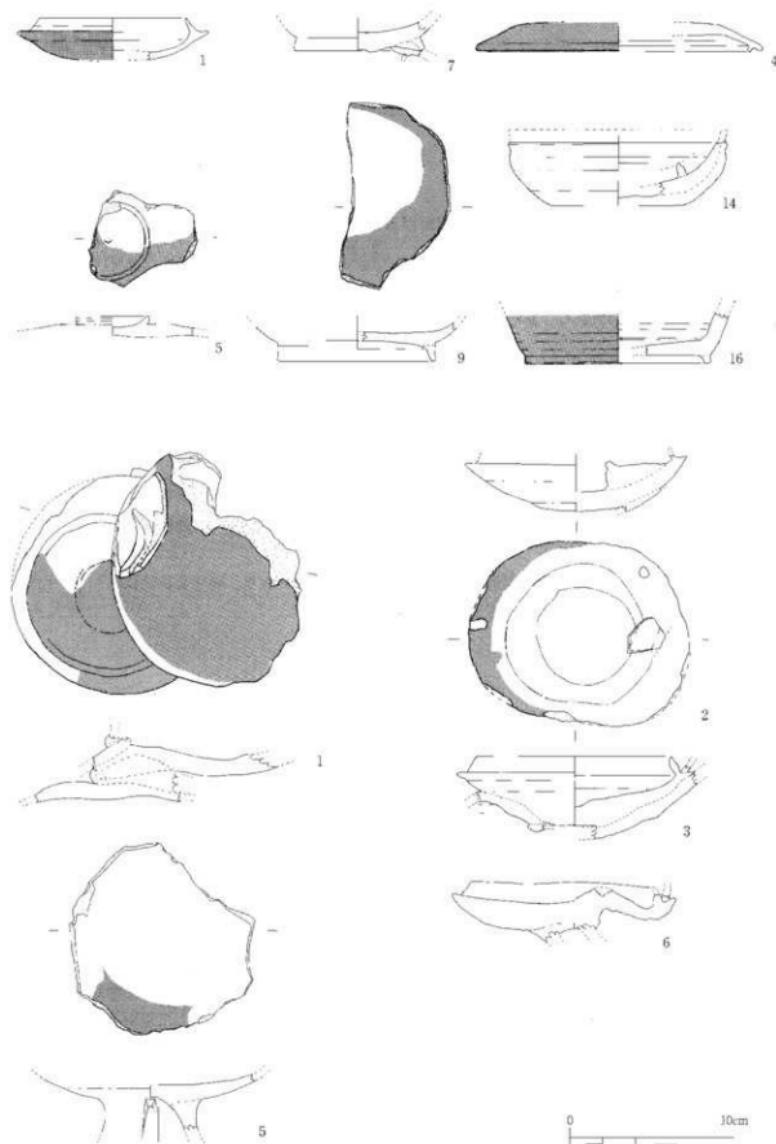
(2) 山津窯跡表探資料 (第25図)

环H

被灰資料が1点(1)ある。体部外面全体に被灰がみられ、逆位詰めと考えられる。

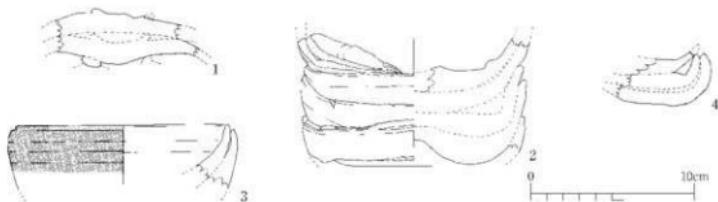
环F

溶着資料が1点(7)と被灰資料が3点(4・5・9)ある。7は蓋と身が溶着しており、蓋と身をセットにして重ね焼きしている。蓋の被灰資料4・5は外面に被灰がみられ、正位詰めである。身の被灰資料9は内面に被灰がみられ、正位詰めである。被灰が底面中央にはみられず、その径から同器種を重ねた可能性がある。



第25図 山津・岩汐窯跡被灰・溶着資料（上段：山津、下段：岩汐）

4. 窯詰め法



第26図 大井窯跡群被灰・変色・溶着資料

境A

14は、塊が三つ重なっており、同器種を重ね焼きしていることが分かる。

境B

被灰資料が1点（16）ある。被灰が外面全体にみられ、逆位詰めである。

(3) 岩汐窯跡表採資料（第25図）

境H

溶着資料が3点（1～3）あり、すべて蓋と身のセットで焼いている。1は三組の蓋と身のセットであり、上から逆位、逆位、正位で重ねている。2・3は身の外面向に被灰があり、逆位詰めである。

高坏

高坏は2点（5・6）ある。5は円形に被灰がみられない部分があり、高坏を正位に重ねていた可能性が高い。6は蓋が溶着しており、蓋と身をセットで焼いている。

(4) 大井窯跡群表採資料（第26図）

境F

1は蓋が三つ重なっており、同器種を重ね焼きしていることが分かる。

境A

溶着資料が3点（2～4）あり、塊A同士を重ねて焼いている。

以上、紹介した資料の中から、窯詰め法が分かるものについて述べた。ここでは、特に資料が描っているババタケ窯と岩汐窯の窯詰め法について、山沖窯の分析成果（藤原編2006）を参考に検討する。

まず、ババタケ窯の境Hは、すべて蓋と身をセットにして互い違いに重ねて焼いている。その際、正位詰めと逆位詰めの両方を行っている。一方、山沖窯の境Hは、蓋と身のセットを逆位に重ねており、正位に置いたものはみられないという違いがある。高坏は、蓋とセットで焼成したかは不明だが、脚部を上にして逆位詰めされており、山津窯と同じあり方である。

次に、岩汐窯をみると、境Hは蓋と身をセットにし、互い違いに重ねている。ババタケ窯同様に、蓋を上にした正位詰めと蓋を下にした逆位詰めの両方がある。高坏は蓋とセットにして焼いているものと高坏だけ正位に重ねて焼いているものがある。この窯詰めのあり方も山沖窯と同じである。

今回紹介したババタケ窯・岩汐窯の窯詰め法を検討した結果、境Hは蓋と身のセットを重ねる際に、山津窓では逆位詰めしかみられないのに対し、ババタケ窯・岩汐窓では正位詰めと逆位詰めの両方を行っていたことが分かり、山津窓との相違点を見出せた。また、高坏は山沖窓と同様の窯詰めを行っていることが明らかになった。

（岡崎）

5. まとめ

今回の報告の成果をまとめると以下の通りになる。

まず、表探された須恵器の年代について整理する。年代については柳浦氏の編年案（柳浦1986、以下「柳浦編年」）と藤原氏の編年案（藤原編2006、以下「藤原編年」）を参考にし、時期の比定は形態の変化を捉えやすい坏・塊によった。

ババタケ窯の表探資料は、坏、塊の器形から判断すると柳浦編年の3期～9期、藤原編年のI期～V期に相当し、実年代は6世紀後半～10世紀となる。この須恵器の年代幅は、柳浦氏が推定したババタケ窯の操業年代とはほぼ一致する（柳浦1986、434頁）。

山津窯の表探資料は柳浦編年の3期～8期、藤原編年のI期～IV期に相当する。実年代は6世紀後半～9世紀末である。山津窯については発掘調査の結果、良好な層位的資料が出土し、6世紀末～10世紀の操業が推定されている（藤原編2006、458～463頁）。今回紹介の資料は、この範囲におさまる。

岩沙窯の表探資料は柳浦編年の3期～5期、藤原編年のI期～II期に相当する。実年代は6世紀後半～7世紀中葉と推定される。柳浦氏はかつて岩沙窯の操業時期を柳浦編年の2期～7期（6世紀前半～8世紀中頃）と指摘している（柳浦1986、436頁）。今回紹介した資料も年代的に矛盾しない。

唐干窯の表探資料は坏Fが1点しかないが、この器種は柳浦編年の5期～8期、藤原編年のII期～V期にみられる。これまで唐干窯の操業年代は柳浦編年の4期～6期と推定されていた（柳浦1986）。ここで紹介した坏Fは、6期以降に下る可能性もあるが、資料数が少ないので断定は出来ない。

表探資料を検討した結果、ババタケ窯・山津窯・岩沙窯・唐干窯の操業年代についてはほぼ従来の見解を確認することができた。

また、器種については、ババタケ窯では提瓶・壺・甌・鉢、岩沙窯では坏Fの身を焼いていることを今回の整理で初めて確認した。

窯詰め法については、山津窯の窯詰め法（藤原編2006）と基本的に同じあり方を示すが、ババタケ窯・岩沙窯の坏Hでは蓋と身のセットを正位と逆位に重ねている例を確認した。こうした重ね方は、山津窯では確認されていない。

今回の資料紹介は、島根大学が保管する大井窯跡群の表探資料を対象に行った。表探品を対象にしたため十分な考察をすることができなかったが、この作業が当地の今後の須恵器研究に少しでも役に立てばと願う次第である。

（瀧川・原）

おわりに

今回の報告は、2006年度本学法文学部の授業科目「考古学実習Ⅱ」の一環として行った。最初は、坏の身や蓋の区別も満足にできず、テン箱10箱ほどの資料を日々の当たりにし、途方にくれたものである。その後、考古学のゼミの一環として、大井窯跡群の見学に行き、実際に現地の地形を確かめながら歩きまわり、須恵器を探集した。また、山津窯跡の出土遺物を見学させていただいたことにより、今回の作業の重要性を再認識し、俄然やる気をだして取り組むことができた。その後は夏休みも返上で実測を続け、何とか1年でここまで形にすることができた。

今回の作業をまとめるに当たって、多くの方々にお世話をになった。特に、松江市教育文化振興事業団の藤原哲氏には様々な面でご指導いただいた。末筆ながらここに厚く感謝申し上げる。

（瀧川・原）

参考文献

- 秋本吉郎校注1958『日本古典文学大系2 凢土記』岩波書店
- 今岡一三1988「Ⅲ・7. 小結」「薦沢A遺跡 薦沢B遺跡 別所遺跡」松江市教育委員会
- 内田律雄1988・1990「『出雲國風土記』大井浜の須恵器生産（上）（下）」「古代学研究』第118・120号、古代學研究會
- 大谷見一1994「山雲地域の須恵器の編年と地域色」「島根考古学会誌」第11集、島根考古学会
- 岡崎雄二郎1985「大井古窯跡群」「島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅲ 窯業関係遺跡」島根県教育委員会
- 岡崎雄二郎2003「山津窯跡発掘調査報告書－2・3号窯跡－」松江市教育委員会
- 岡崎雄二郎・鎌倉慶樹・萩雅人・今岡一三・瀬古謙子・飯塚康行編1988「薦沢A遺跡 薦沢B遺跡 別所遺跡」松江市教育委員会
- 岡崎雄二郎・中尾秀悟・藤原裕子・庄司健太郎・瀬古謙子編1990「御田遺跡・朝酌荒神谷遺跡 イガラビ遺跡・イガラビ古墳群 池ノ奥古墳群・池ノ奥C、D遺跡」松江市教育委員会
- 岡崎雄二郎・瀬古謙子1990「第3章 第6節 池ノ奥C、D遺跡」「御田遺跡・朝酌荒神谷遺跡 イガラビ遺跡・イガラビ古墳群 池ノ奥古墳群・池ノ奥C、D遺跡」松江市教育委員会
- 後藤藏四郎1934「天平時代の古窯址」「島根縣史蹟名勝天然紀念物調査報告」第六輯、島根縣
- 近藤正1967「窯業 山陰」「日本の考古学IV」河出書房
- 昌子寛光・佐々木稔1990「第3章 第8節 池ノ奥古窯跡群」「池ノ奥A遺跡・池ノ奥窯跡群」松江市教育委員会
- 野津左馬之助1926「窯業」「島根縣史 五 國司政治時代」島根縣
- 東尋坊1970「朝酌の古墳文化」「研究紀要」第1号、松江市立女子高等学校
- 藤原哲編2006「大井窯跡群 山津窯跡・山津遺跡発掘調査報告書」財團法人松江市教育文化振興事業団
- 藤原哲・秦愛子2004「出雲地域における窯跡出土の須恵器－大井古窯跡群における6世紀末～8世紀の資料を中心にして」『島根考古学会誌』第20・21集合併号、島根考古学会
- 前島己基1966「朝酌鄭古窯址群と採集須恵器」「曾山考古」第9号、島根大学考古学研究会
- 森山喜久男2000「朝酌鄭の景観と生業」「出雲國風土記の研究Ⅱ 島根郡朝酌郷調査報告書」島根県古代文化センター・調査研究報告書7、島根県古代文化センター
- 柳浦俊一1980「山雲地方における歴史時代須恵器の編年試論」「松江考古」第3号、松江考古学談話会
- 柳浦俊一1986「出雲地方の須恵器生産」「山陰考古学の諸問題」山本清先生喜寿記念論集刊行会
- 柳浦俊一1989「出雲・大井古窯跡群の須恵器生産と流通」「島根考古学会誌」第6集、島根考古学会
- 柳浦俊一1995「出雲における須恵器の生産・流通と特質」「風土記の考古学③」同成社
- 山本清1960「山陰の須恵器」「開学十周年記念論文集」島根大学

第1表 ババタケ糞跡周辺表探資料観察表

半色調は「前版原色」色替1993年度」を参考にした。既存率は、既往・口絆から求めた。

数 量	種類	残存率	出番(半寸:cm)	地土	根成	色調	記述内容	備考
1	坏壊	1/8	コ径15.0	砂が多量混入 黒い粒が多量混入	良好	N4(灰)	ババタケ糞	
2	坏壊	1/10	コ径15.0	黒い粒子が多量混入 黒い粒が多量混入	良好	N6(灰)	ババタケ糞	
3	坏壊	1/10	コ径14.0	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒が多量混入	良好	外壁33Y4/1(黄みがかった黄) 内壁N5(灰)	ババタケ糞	
4	坏壊	1/4	コ径14.0	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒が多量混入 灰粒が微量混入	良好	外壁N5(灰) 内壁37Y7/1(灰)	ババタケ糞	天井部にヘラ記号丁
5	坏壊	1/3	-	黒い粒子が多量混入	良好	SV6/100	ババタケ糞(ドウロ)	
6	坏壊	1/5	-	黒い粒子が多量混入 大粒の黒粒混入	良好	外壁N6/1(灰) 内壁37Y7/1(灰)	ババタケ糞	
7	次次	1/4	-	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒子が多量混入	良好	SV5/1(黄)	ババタケ糞	
8	坏壊	1/6	-	飛石が微量混入	良好	N4(灰)	ババタケ糞	
9	坏壊	1/4	11壁140 厚さ38	長芯とヒダ模様混入 黒い粒子が多量混入	良好	青灰色したが青が強い	ババタケ糞	
10	坏壊	1/6	口徑126 厚さ39	クリーム色の粒子が少量混入	良好	SV6/1(黄味がかった黄)	ババタケ糞	焼き茶
11	坏壊	1/12	11壁155	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒子が少量混入	良好	外壁N6(000) 内壁37Y7/1(灰)	ババタケ糞	
12	坏壊	-	-	クリーム色の粒子が混入	良好	10Y5/100	ババタケ糞	内面に浅い沈痕、 1樓部外間に変色
13	坏壊	1/6	口徑13.1 厚さ1.0	砂粒が多量混入 黒い粒が多量混入	良好	外壁N5(000) 内壁37Y7/1(灰)	ババタケ糞	
14	坏壊	1/12	11壁150	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒子が多量混入	良好	外壁31Y5/2(灰) 内壁37Y7/1(灰)	ババタケ糞	
15	坏壊	1/3	-	-	良好	SV4/100	ババタケ糞(ドウロ)	
16	坏壊	1/2	-	クリーム色の粒子が多量混入 黒い粒子が多量混入	良好	SV5/1(黄味がかった灰) 内壁37Y7/1(灰)	ババタケ糞	
17	坏壊	1/2	口徑124	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒子が少量混入	良好	外壁N4(灰) 内壁37Y7/1(灰)	ババタケ糞(ドウロ)	
18	坏壊	-	-	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒子が少量混入 灰粒が微量混入	良好	外壁37Y5/1(灰) 内壁37Y6/1(灰)	ババタケ糞	外内全体に自然軸 外方に変色
19	坏壊	1/8	11壁126	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒子が微量混入	良好	外壁32Y5/1(黄)	ババタケ糞	
20	坏壊	-	-	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒子が多量混入	良好	SV5/1(黄)	ババタケ糞(ドウロ)	有菌の一輪に火焔れ
21	坏壊	1/8	口徑11.0	石英が微量混入	良好	N1.5(墨)	ババタケ糞	口縁部外間に微灰
22	坏壊	1/10	口徑10.5	砂粒が多量混入	良好	SV6/100	ババタケ糞	
23	坏壊	1/6	口徑13.0 厚さ3.7	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒子が少量混入 灰粒が微量混入	良好	外壁37Y5/1(灰) 内壁N3(000)	ババタケ糞	
24	坏壊	1/5	-	砂粒が多量混入	良好	外壁37Y5/1(灰) 内壁37Y7/1(灰)	ババタケ糞(ドウロ)	切り離しはヘリ切り
25	坏壊	1/10	コ径11.0	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒子が微量混入	やや良好	内壁37Y5/1(灰)	ババタケ糞	
26	坏壊	1/8	コ径12.0	第1-2粒が少量混入 2-3mmの石が微量混入	良好	内壁37Y5/1(灰)	ババタケ糞	
27	坏壊	1/6	11壁104	クリーム色の粒子が少量混入 長石が多量混入	良好	SV5/1(灰)	ババタケ糞(ドウロ)	
28	坏壊	1/12	口徑11.8	クリーム色の粒子が微量混入	良好	23SV5/1(黄)	ババタケ糞	
29	坏壊	1/12	-	黒い粒子が多量混入 クリーム色の粒子が多量混入	良好	外壁37Y5/1(黄味がかった灰) 内壁37Y6/1(灰)	ババタケ糞(ドウロ)	1層部に浅き並み
30	坏壊	-	-	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒子が少量混入	良好	外壁37Y5/1(黄味がかった灰) 内壁N5(灰)	ババタケ糞	
31	坏壊	1/6	-	クリーム色の粒子が少量混入 灰粒が微量混入	良好	外壁37Y5/1(灰) 内壁37Y7/1(灰)	ババタケ糞(ドウロ)	
32	坏壊	-	-	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒子が少量混入	良好	外壁37Y5/1(灰) 内壁37Y6/1(灰)	ババタケ糞(ドウロ)	焼き茶
33	坏壊	1/12	口徑13.6	砂粒が多量混入	良好	SV6/100オリーブ	ババタケ糞	
34	坏壊	1/10	11壁129	黒い粒子が多量混入	良好	外壁37Y5/1(黄)	ババタケ糞	体部外間に自然軸付着
35	坏壊	1/4	口徑13.2 厚さ3.7	黒い粒子が多量混入 長石が多量混入	良好	N5(00)	ババタケ糞	
36	坏壊	1/5	口徑12.0	石英と長石が微量混入	良好	5Y5/1(黄)	ババタケ糞(ドウロ)	
37	坏壊	1/16	11壁124	黒い粒子が多量混入 長石が多量混入	良好	外壁37Y5/4/1(黄味がかった灰) 内壁37Y5/1(灰)	ババタケ糞(ドウロ)	
38	坏壊	1/8	口徑12.4	黒い粒子が少量混入	良好	外壁37Y7/2(灰) 内壁37Y7/2(灰)	ババタケ糞	
39	坏壊	1/12	口徑11.7	クリーム色の粒子が少量混入	良好	23SV5/1(黄)	ババタケ糞	
40	坏壊	1/6	11壁11.6	クリーム色の粒子が多量混入	良好	SV5/1(黄)	ババタケ糞	
41	坏壊	1/5	口徑11.6	黒い粒子が多量混入	良好	N7/0(少し白味がかった灰)	ババタケ糞	
42	坏壊	1/10	11壁10.8	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒子が少量混入	良好	外壁N5(00) 内壁37Y5/4/1(黄)	ババタケ糞	
43	坏壊	1/12	口徑10.0	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒子が少量混入	良好	外壁37Y5/1(黄)	ババタケ糞	
44	坏壊	1/6	口徑10.3	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒子が少量混入	良好	23SV5/1(黄)	ババタケ糞(ドウロ)	
45	坏壊	1/6	11壁106	クリーム色の粒子が少量混入 灰粒が微量混入	良好	SV5/1(00)	ババタケ糞	
46	坏壊	1/4	11壁104 厚さ3.7	クリーム色の粒子が多量混入 直径2mmのクリーム色の粒子が多量混入 直径2mmの白味の粒子が微量混入	良好	外壁10Y5/1(黄) 内壁37Y6/1(灰)	ババタケ糞	

数 量 号	器種	残存率	法量(単位:oz)	船上	地底	色調	注記内容	備考
47	坏身	1/10	口徑10.0	黒い粒が多量混入 粒石が微量混入	良好	外底SY3/1(オリーブ黒) 内底SY6/10(黒)	ババタケ菌060428	
48	坏身	1/10	口徑9.8	クリーム色の粒子が多量混入 黒い粒が多量混入	良好	SY3/1(黒)	ババタケ菌(マウロ)	
49	坏身	1/12	口徑9.2	クリーム色の粒子が多量混入 黒い粒が多量混入	やや良好	SY3/1(黒)	ババタケ菌731010	
50	坏身	1/10	口徑8.8	クリーム色の粒子が多量混入 黒い粒が多量混入	良好	7SY5/1(黄黒がかった灰)	ババタケ菌S42.35	
51	不身	1/8	口徑9.1	クリーム色の粒子が多量混入 黒い粒が多量混入	良好	SY6/10(黒)	ババタケ菌731010	
52	坏身	1/4	口徑8.6	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒が多量混入	良好	外底SY3/1(黒) 内底SY5/1(黒)	ババタケ菌	
53	坏身・坏蓋	-	-	黒い粒が多量混入	良好	SY6/10(黒)	ババタケ菌	焼き笠み
54	坏身・坏蓋	-	-	黒い粒が多量混入	良好	外底SY3/1(黒) 内底SY4/0(黒) 外底SY6/10(黒) 内底SY5/1(黒) 外底SY6/10(黒) 内底SY6/10(黒)	ババタケ菌(ドウ)7 ババタケ菌(ドウ)8	焼と亞ミ ババタケ菌の底部に工具による ハケ目状の条痕
55	坏身・坏蓋	-	-	黒い粒が多量混入	良好	SY6/10(黒)	ババタケ菌	
56	坏身	1/16	-	クリーム色の粒子が微量混入 粒石が微量混入	良好	外底SY3/1(黒) 内底SY3/0(黒)	ババタケ菌(マウロ)	外側の一部に自然輪 受け蓋に坏蓋の端部が巻き
57	坏身	-	-	クリーム色の粒子が少量混入 粒石が微量混入	良好	SY5/6/10(黒)	ババタケ菌	焼き笠み 受け蓋に坏蓋の端部が巻き
58	坏身・坏蓋	-	-	黒い粒が多量混入	良好	2SY3/1(黄黒)	ババタケ菌	焼き笠み 坏身の外裏に二次施城
59	坏蓋	1/10	口徑11.0	混入物が少ないので	良好	SY5/10(黒)	ババタケ菌(マウロ)	
60	坏蓋	2/5	口徑10.5	砂粒が少量混入	良好	SY7/10(白)	ババタケ菌	
61	坏蓋	1/6	口徑16.6	クリーム色の粒子が少量混入 粒石が微量混入	良好	外底SY6/1(黄黒) 内底SY3/10(黒)	ババタケ菌731010	
62	坏蓋	1/6	口徑12.0	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒が少しある 粒石が微量混入	やや良好	外底SY5/1(白) 内底SY3/10(黒)	ババタケ菌731010	
63	坏蓋	1/4	-	黒い粒が少しある	良好	外底SY4/0(黄黒がかった灰) 内底SY5/10(黒)	ババタケ菌(ドウ)	焼き笠み
64	坏蓋	1/6	口徑12.0	クリーム色粒子混入、黒い粒が少 くある 粒石が混入	良好	外底SY5/10(黒) 内底SY5/10(黒)	ババタケ菌731010	
65	坏蓋	2/5	-	クリーム色の粒子が少量混入	良好	外底SY5/6/10(黄黒) 内底SY3/10(黒)	ババタケ菌(マウロ)	
66	坏蓋	1/5	-	クリーム色、黒い粒の粒子が微量混入	良好	N/A(黒)	ババタケ菌	
67	坏身	1/10	口徑16.0	クリーム色の粒子が多量混入 黒い粒が少しある 粒石が微量混入	良好	外底SY4/10(黒) 内底SY3/10(黒)	ババタケ菌731010	
68	不身	1/4	II種135 X種55	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒が少しある 粒石が微量混入	良好	SY5/2/1(やや黒)	ババタケ菌 バー2	
69	坏身	1/3	-	黒い粒が少しある	良好	SY5/10(黒)	ババタケ菌(ドウ)	
70	坏身	1/4	-	粒石が多量に混入	良好	外底SY3/1(黒) 内底SY3/10(白)	ババタケ菌	送付にヘラ記号
71	坏身	-	-	クリーム色の粒子が微量混入 粒石1mmの白色砂粒が微量混入	良好	2SY4/1(黄黒)	ババタケ菌	
72	坏身	1/2	-	クリーム色の粒子が混入 黒い粒が少しある	良好	外底SY4/0(黄黒) 内底NS5/10(白がかった灰)	ババタケ菌060428	
73	坏身	1/2	-	クリーム色の粒子が少量混入 粒石2mmの石英が微量混入	良好	7SY3/1(黄黒がかった灰)	松江市大井町八幡	
74	坏身	-	-	黒い粒が少しある	良好	外底SY3/5(白) 内底SY3/5(白)	ババタケ菌(マウロ)	
75	坏身	-	-	クリーム色の粒子が多量混入 黒い粒が少しある	良好	外底SY3/5(青) 内底SY3/5(青)	ババタケ菌	
76	坏身	1/6	-	-	良好	外國NS3/10(黒) 内底SY3/5(青灰に近い)	S4255	
77	坏身	-	-	クリーム色の粒子が少しある	良好	外底SY3/5(白) 内底SY3/5(白)	ババタケ菌	
78	坏身	1/4	口徑12.2 X種5.1	クリーム色の粒子が少しある	やや良好	SY6/2/5/10(白)	ババタケ菌731010	
79	不身	1/5	-	黒い粒が少しある	良好	SY4/5/10(白)	ババタケ菌(マウロ)	
80	坏身	1/6	口徑13.5	黒い粒が少しある 粒石が微量混入	良好	SY3/2/5/10(白)	ババタケ菌(マウロ)	
81	腐坏	-	-	クリーム色の粒子が微量混入	良好	外底SY3/10(黒) 内底SY3/5/10(黒)	ババタケ菌(ドウ)	
82	腐坏	1/3	-	粒石が微量混入	良好	SY3/3/10(黒)	ババタケ菌	外裏に自然筋が付属
83	腐坏	1/10	选择11.2	黒い粒が少しある	良好	2SY7/10(白)	ババタケ菌060428	
84	腐坏	1/3	选择11.5	クリーム色の粒子が微量混入 粒石が多量混入	やや不良	外底SY5/6/10(黒) 内底SY5/6/10(黒)	ババタケ菌(ドウ)	
85	腐	2/5	口徑18.6	クリーム色の粒子が微量混入	良好	SY6/10(黒)	ババタケ菌	
86	腐	1/6	口徑15.6	混入物が少ないので	良好	外底SY5/4/5/10(黄黒) 内底SY5/5/10(黄黒)	ババタケ菌 7	外側一部に被状 内底に被状
87	腐	1/8	II種19.6	混入物は少ない	良好	外底SY3/5/10(黄黒) 内底SY4/5/10(黄黒)	バ 3 ババタケ菌	
88	腐	1/4	口徑20.6	クリーム色の粒子が微量混入	良好	外底SY5/7.5/10(黄黒) 内底SY5/6/10(黄黒)	ババタケ菌	
89	腐	1/6	口徑20.8	クリーム色の粒子が少しある 白い粒の砂粒が少しある	良好	SY6/10(黒)	ババタケ菌731010	外表面に被状
90	腐	1/8	II種18.5	粒石が微量混入	良好	外底SY4/10(黒) 内底SY5/10(黒)	ババタケ菌(ドウ)	

観察分類	基準	現存率	法番(単位:cm)	直径	構成	色調	注記内容	備考
91	更	1/10	□径18.4	山葵が少量混入	良好	外壁25Y6/1(木灰) 内壁25Y5/5(木灰) 55Y3/1(木灰)	ババタケ属	口側部に赤み 口側部外壁に自然植
92	更	1/6	□径14.4	混人物は少ない	良好	5Y7/2(木)	ババタケ属	外壁全体に被灰・自然植 内壁全体に被灰・自然植
93	良	-	-	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒子が微量混入	良好	外壁25Y6/1(木灰) 内壁25Y5/5(木灰) 55Y3/1(木灰)	ババタケ属	外壁全体に被灰・自然植 内壁全体に被灰・自然植
94	更	1/20	周径37.0	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒子が微量混入	良好	外壁25Y6/1(木灰) 内壁25Y5/5(木灰)	ババタケ属(ドウロ)	外壁全体の後ナメ目 外壁全体にカキ目
95	良	1/10	11径20.0	黒い粒子が少量混入 白い粒子が微量混入	良好	外壁25Y5/5(木灰) 内壁25Y6/2(木灰)	ババタケ属	外壁全体に自然植 内壁全体に自然植
96	更	1/10	□径17.1	黒い粒子が微量混入	良好	5Y7/1(木)	ババタケ属	外壁全体に被灰 内壁全体に被灰・自然植
97	良	-	-	クリーム色の粒子が少量混入 黒い粒子が多量混入	良好	外壁5Y6/1(木) 内壁5Y5/5(木オリーブ)	ババタケ属(マクロ)	外壁全体に自然植 内壁全体に自然植
98	更	-	-	黒石が微量混入	良好	有茎 内壁5Y3/1(木)	松山市人町バ加 二、九、三	内壁に自然植
99	更	-	-	長石が微量混入	良好	外壁25Y3/0(木灰) 内壁25Y5/5(木灰)	ババタケ属(ドウロ)	外壁全体に自然植
100	良	-	-	薄葉2片が少量混入	やや不良	25Y6/2(木灰)	ババタケ属(ドウロ)	外壁全体に自然植
101	良	-	-	クリーム色の粒子が微量混入	良好	外壁25Y6/1(木灰) 内壁25Y5/5(木灰)	ババタケ属(ドウロ)	内面一部に自然植
102	良	-	-	黒石が微量混入 白い粒子が微量混入	良好	外壁NLS-008(木灰)に近い色 内壁N4/4(木)	ババタケ属(ドウロ)	外壁全体に自然植
103	更	1/10	-	黒い粒子が微量混入 白い粒子が微量混入	良好	外壁7.5Y3/5(木) 内壁7.5Y3/5(木)	ババタケ属	外壁全体に自然植
104	黒	-	-	クリーム色の粒子が少量混入	良好	5Y5/1(木)	ババタケ属(ドウロ)	外壁全体に自然植
105	良	-	-	黒い粒子が微量混入 白い粒子が微量混入	良好	外壁25Y3/1(木灰) 内壁25Y5/5(木灰)	ババタケ属(マクロ)	外壁全体に自然植
106	更	-	-	長石が微量混入	良好	5Y6/5/7(木灰) 内壁5Y5/5(木)	ババタケ属(マクロ)	外壁全体に自然植
107	更	-	-	クリーム色の粒子が多量混入 2mmの白・白色粒状が少量 混入	良好	外壁25Y6/1(木灰) 内壁5Y3/5(木灰)	ババタケ属(ドウロ)	内面に自然植
108	良	-	-	黒い粒子が微量混入	良好	外壁5Y6/5/1(木)	ババタケ属(ドウロ)	内面に自然植
109	良	-	-	クリーム色の粒子が多量混入 長石が微量混入	良好	3Y6/1(黄緑がかった色)	ババタケ属(ドウロ)	内面に自然植
110	良	-	-	白石・長石が少量混入	良好	外壁7.5Y3/1(木) 内壁7.5Y3/1(木)	ババタケ属	内面に自然植
111	良	-	-	黒い粒子が微量混入 白い粒子が微量混入	良好	5Y5/1(木)	ババタケ属	内面に自然植
112	更	-	-	青色が微量混入	良好	2.5Y3/1(木灰)	ババタケ属(マクロ)	内面は高木の後ナメ
113	良	-	-	クリーム色の粒子が少量混入	良好	外壁5Y4/5(木灰) 内壁5Y5/5(木灰)	ババタケ属	内面に自然植
114	良	-	-	クリーム色の粒子が微量混入 1mmの砂粒が多量混入	良好	外壁25Y25/4(40番赤筋) 内壁25Y24/4(木灰)	ババタケ属	外壁はタキの後ナメ 内面は当見の後ナメ
115	良	-	-	クリーム色の粒子が微量混入 1mmの砂粒が多量混入	良好	外壁5Y5/5(木灰) 内壁25Y4/5(木灰)	ババタケ属	外壁の一部に自然植
116	良	-	-	クリーム色の粒子が微量混入 白石が微量混入	良好	外壁25Y5/1(木灰) 内壁25Y6/5/1(木灰)	ババタケ属	内面に自然植
117	良	-	-	クリーム色の粒子が少量混入 黒石が微量混入 白石が微量混入 白系が微量混入	良好	外壁5Y4/5(木灰) 内壁5Y6/10(木オリーブ)	ババタケ属(ドウロ)	内面に自然植
118	良	-	-	クリーム色の粒子が微量混入 黒い粒子が微量混入	やや良好	外壁7.5Y4/1(木灰) 内壁10G5B/1(木)	ババタケ属	外壁の一部に自然植
119	良	-	-	黒い粒子が微量混入	良好	外壁25Y5/5(木灰) 内壁25Y7/5(木灰)	ババタケ属(ドウロ)	外壁はタキの後ナメ
120	良	-	-	黒い粒子が微量混入 1-2mm程の砂粒が微量混入	良好	外壁7.5Y6/10(木) 内壁7.5Y6/10(木)	ババタケ属	外壁はタキの後ナメ
121	良	-	-	クリーム色の粒子が微量混入	良好	外壁N5/5(木灰) 内壁25Y5/1(木灰)	ババタケ属	外壁全体に被灰
122	良	-	-	1~2mm程の砂粒が少量混入	良好	外壁25Y5/1(木灰) 内壁25Y6/5/1(木灰)	ババタケ属(ドウロ)	内面一部に被灰
123	良	..	-	黒い粒子が少量混入 白石が微量混入	良好	外壁N4/4(木灰) 内壁N10G5B/5(木灰)に近い色	ババタケ属	内面の一部に自然植
124	良	-	-	黒い粒子が微量混入 白石が微量混入	良好	外壁N4/4(木灰) 内壁25Y5/5(木灰)	ババタケ属(ドウロ)	内外の全体に被灰
125	良	-	-	長石が微量混入	良好	外壁N5/5(木灰) 内壁N5/5(木灰)	ババタケ属(ドウロ)	内外の一部に被灰・自然植
126	良	-	-	クリーム色の粒子が少量混入	不良	外壁2.5Y3/2(2番赤) 内壁23Y7/2(木灰)	ババタケ属	内面に自然植
127	良	-	-	黒い粒子が微量混入 白石が微量混入	良好	外壁3Y5/5(木)	ババタケ属	内面はタキの後ナメ 内面は当見の後ナメ
128	良	-	-	長石が微量混入	良好	外壁25Y5/6(木灰) 内壁25Y7/10(木)	ババタケ属	内面に自然植
129	良	-	-	1mm程の砂粒が多量混入	良好	25Y5/1(木灰)	ババタケ属	内面一部に自然植
130	良	-	-	1mm程の砂粒が微量混入	良好	25Y5/1(木灰)	ババタケ属	内面一部に自然植
131	良	-	-	クリーム色の粒子が少量混入 白石・長石が微量混入	良好	外壁5Y6/5(木灰がかった色) 内壁25Y5/5(木灰)	ババタケ属(ドウロ)	内面に自然植
132	良・坏死 ・更	-	-	(1)白石が微量混入 白石が微量混入 (2)1~2mm程の砂粒が微量混入 (3)砂粒	良好	外壁25Y5/5(木灰) 内壁25Y6/5(木灰) 55Y3/1(木灰) 内壁25Y5/5(木灰)	ババタケ属	①底面に白石の塊 ②底面の木中 ③底面に自然植
133	良	-	-	混人物は少ない	良好	外壁25Y4/5(木) 内壁25Y5/5(木灰)	ババタケ属	内外全体に自然植 内外全体に自然植
134	良	-	-	混人物は少ない	良好	外壁5Y7/2(木) 内壁5Y5/1(木)	ババタケ属(ドウロ)	内外全体に自然植

号 番	器種	残存率	出量(单位:t)	動土	造成	色調	注記内容	参考
135	壺	-	-	②黒い粒子が微量混入	良好	①外壁2.5Y5/1(黄灰) 2.5Y8/1(白) 内壁2.5Y5/1(黄灰) 内壁2.5Y5/1(黄灰)	①外側はタガ子の後カキ目 ②外側一部に横状 ③外側一部に黄色	
136	壺	-	-	黒い粒子が多量混入	山野	内壁2.5Y5/1(黄灰) 内壁2.5Y5/1(黄灰) 内壁2.5Y5/1(黄灰)	外壁一部にハケ目 底面黒い部分がみられる。	
137	甕	-	-	黒い粒子が多量混入	良好	SY6/1(白)	ババタケ窓	
138	甕	-	-	黒い粒子が多量混入 底面が微量混入	山野	内壁2.5Y5/1(黄灰) 内壁2.5Y5/1(黄灰)	ババタケ窓009428	
139	甕	1/3	-	石英が微量混入	良好	内壁2.5Y5/1(黄灰) 内壁2.5Y5/1(黄灰)	バ-3 ババタケ窓 切り端はハサ切刃	
140	甕	-	-	石英が微量混入	良好	内壁2.5Y5/1(黄灰) 内壁2.5Y5/1(黄灰)	ババタケ窓(ドクロ)	
141	甕	-	-	混入物は少ない	良好	N3/16(白)	ババタケ窓(ドクロ)	
142	容器不明	-	口径6.2	混入物は少ない	良好	内壁N3/0(白)	ババタケ窓	
143	鉢	-	-	表面が微量混入	やや不良	N6.5/0(白)	ババタケ窓(ドクロ) 外壁はタキの後カキ目	
144	器物不明	-	-	長石が微量混入	良好	外壁2.5Y5/1(白) 内壁3.5/0(白)	ババタケ窓(ドクロ)	
145	内面鏡	1/2	発光鏡6.8	長石が微量混入	良好	N4/0(白)	バ-4 外面底部に自然隙	
146	器物不明	1/8	1種16.2	クリーム色の粒子が少量混入	良好	SY6/1(白)がかった白	ババタケ窓(ドクロ)	
147	平瓦	-	-	クリーム色の粒子が少量混入 底面が少額混入	良好	SY6/1(やや暗い灰)	ババタケ窓(ドクロ)	

第2表 山津窯跡手探資料観察表

番号	器種	残存率	出量(単位:t)	動土	造成	色調	注記内容	参考
1	不身	1/4	2t16.0	長石が微量混入	良好	外壁SY5/1(白) 内壁SY5/1(白)	山津窓	施さ玉み
2	竿身	-	J種10.0	死土質	良好	外壁SY7/1(灰白) 内壁SY7/1(灰白)	山津窓S48.10	
3	不蓋	1/5	コ径10.2	クリーム色の粒子が少量混入	良好	外壁SY6/1(白) 内壁SY6/1(白)	山津窓S48.10	
4	竿立	1/8	J種16.0	黒い粒子が少額混入 長石が微量混入	良好	外壁SY5/1(白) 内壁SY5/1(白)	77717718 670505 Ya	
5	平椎	-	つまみ外輪径 4.5-4.8	石英が微量混入	良好	外壁SY5/1(白) 内壁SY5/1(白)	山津窓S48.10	
6	平身	-	底板7.7	クリーム色の粒子が少額混入 火山灰が少額混入 坪口2-2mmの粒状が少量混入	やや不良	外壁SY7/1(白) 内壁SY7/1(白)	山津窓S48.10	
7	竿身-竿蓋	-	底盤7.6	クリーム色の粒子が多量混入	良好	外壁SY5/1(白) 内壁SY5/1(白)	77717718 670505 Ya	
8	不身	1/4	高円径8.4	長石が少額混入 石英が少額混入	良好	外壁2.5Y5/1(黄灰) 内壁2.5Y4/1(黄灰)	山津窓	被火
9	竿身	2/5	-	長石が微量混入	山野	SY6/2.5Y7/1(灰白) 内壁SY7/1(灰白)	山津窓	
10	不身	2/3	高円径9.2	クリーム色の粒子が少量混入 長石が少額混入	良好	外壁2.5Y5/1(灰) 内壁2.5Y5/1(灰)	山津窓	
11	埴	1/8	コ径15.6	クリーム色の粒子が微量混入	良好	外壁SY5/1(白) 内壁SY5/1(白)	77717718 670505 Ya	
12	埴	1/5	口徑14.3	底-付少額混入 長石が少額混入 石英が微量混入	良好	外壁SY4.5/2(灰) 内壁2.5Y5/1(灰)	77717718 670505 Ya	
13	埴	1/3	11径13.0 高円径4.8 (口徑13.2 底径13.9)	クリーム色の粒子が微量混入 底面の砂の少額混入	やや不良	外壁SY8/2(淡灰) 内壁SY7/1(灰白)	山津窓	
14	埴	1/2	11径15.9 高円径15.0	クリーム色の粒子が微量混入 (クリーム色の粒子が微量混入)	良好	外壁SY3/1(黄灰) 内壁SY5/1(黄灰)	77717718 670505 Ya	①外側に粗底
15	埴	2/3	口徑15.0	クリーム色の粒子が少額混入	良好	外壁SY3/1(黄灰) 内壁SY5/1(黄灰)	山津窓	
16	竿身	1/3	-	クリーム色の粒子が微量混入 1-2mmの砂の少額混入	良好	外壁SY3/1(黄灰) 内壁SY5/1(黄灰)	山津窓S48.10	内向に粗底
17	竿身	2/5	-	長石が微量混入 石英が微量混入	良好	外壁2.5Y3/1(灰) 内壁2.5Y3/2(灰)	山津窓S42.5	
18	埴	1/12	11径22.0 厚2.7	クリーム色の粒子が微量混入 砂の少額混入	やや不良	外壁SY6/2(淡灰) 内壁SY5/2(淡灰)	山津窓S48.10	
19	埴	1/10	口徑26.0	クリーム色の粒子が微量混入 心地が微量混入	良好	外壁SY5/2(白) 内壁SY5/2(白)	山津窓S48.10	
20	埴	3/5	口徑11.2	黒い粒子が少額混入	良好	外壁SY5/1(白) 内壁SY5/1(白)	山津窓	底部にヘラ記号
21	高坏	-	底径12.6	クリーム色の粒子が微量混入 底径2.0cmの砂が少額混入	良好	外壁SY5/1(黄灰) 内壁SY5/1(黄灰)	山津窓S48.10	外側の一部に被火
22	高坏	1/2	底径11.4	底-付少額混入	良好	外壁SY5/1(白) 内壁SY5/1(白)	山津窓S48.10	
23	高坏	1/4	底径12.2	底-1m以下の砂粒が多量混入 長石が微量混入 石英が微量混入	良好	外壁SY5/5(白)	山津窓S48.10	
24	壺	1/12	11径26.4	クリーム色の粒子が微量混入	良好	外壁N1.5/1(灰) 内壁2.5Y5/1(淡灰)	Ya 山津窓 670505	
25	壺	1/8	口徑8.2	黒い粒子が少額混入	良好	外壁SY7/3(淡灰) 内壁SY7/3(淡灰)	山津窓S48.10	
26	壺	1/6	-	長石が少額混入	良好	外壁2.5Y4/1(灰) 内壁2.5Y4/1(灰)	山津窓	
27	壺	1/4	口徑15.4	黒い粒子が多量混入 長石が少額混入	良好	外壁 不明	山津窓S48.10	底き裂
28	壺	-	柄径13.0	私-質	良好	外壁2.5Y3/1(灰) 内壁2.5Y3/1(灰)	山津窓	
29	壺	-	-	軸質	良好	外壁2.5Y3/1(灰) 内壁2.5Y3/1(灰)	山津窓	
30	壺	-	-	長石が少額混入 火山灰が微量混入	良好	外壁2.5Y5/2(白) 内壁2.5Y5/2(白)	山津窓S48.10	

番号	種類	残存率	法蓋(単位cm)	粘土	地城	色調	法記内容	備考
31	堅	1/5	-	柱1~2mの砂粒が多量混入	良好	外壁2576/20(灰白) 内壁2576/20(灰白)	山津屋S4810	
32	空洞具	-	-	クリーム色の粒子が微量混入 石灰が微量混入	良好	外壁2576/16(灰白) 内壁2576/16(灰白)	山津屋S4810	
33	器台?	-	-	クリーム色の粒子が多量混入 石灰が微量混入 長石が微量混入	良好	外壁1075/16(灰) 内壁1075/16(灰白)がかった灰	Y4760505 771187718	

第3表 岩沙窯跡表探資料観察表

番号	種類	残存率	法蓋(単位cm)	断土:	焼成	色調	法記内容	備考
1 环身・环底	①	-	-	黒い粒子が多量混入	良好(灰白)	外壁 不良 内壁2576/16(灰白)		
	②	-	-	黒い粒子が多量混入	良好(灰白)	外壁 不良 内壁2576/16(灰白)		
	③1/2	-	-	黒い粒子が多量混入	良好(灰白)	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰白)		外壁に被灰
	④2/5	-	-	黒い粒子が多量混入	良好(灰白)	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰白)		焼き茶
	⑤2/3	口径12.0	-	黒い粒子が多量混入	良好(灰白)	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰白)		外壁に被灰
2 环身	⑥	-	-	黒い粒子が少量混入	良好(灰白)	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰白)		
	7	-	-	クリ、ム色の粒子が少量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰白)	岩沙窯	
3 环身・环底、先	环身24.8cm 先	环身24.8cm 先	12.9	柱合2.5cmの柱が多量混入 柱合クリーム色の柱が多量混入 柱合黒い柱が多量混入 長石が少量混入 石灰が微量混入 柱合クリーム色の粒子が多量混入 柱合黒い柱の粒子が多量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰白)		
	8	-	-	柱合2.5cmの柱が少量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰白)	大井窯窯 野井本店西客廳	
4	环身	底部充存	高台幅8.0	クリーム色の粒子が少量混入 黒い柱が少量混入	良好	外壁1075/16(灰) 内壁2576/16(灰)	大井町泥沙	
5	高坛	1/2	-	クリーム色の粒子が少量混入 黒い柱が少量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰白)	岩沙	
6	高环身・盖(环部充存)	11.1径12.6	-	クリーム色の粒子が多量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰白)	外壁全体に被灰	
7	壳	-	-	粘土質	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰白)	岩沙	
8	壳	-	-	径1mm以下の砂が少量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁573/2(オリーブ灰)	岩沙	外壁に被灰
9	壳	-	-	粘土質	良好	外壁2576/16(灰) 内壁573/2(オリーブ灰)	岩沙	外壁に被灰
10	壳	-	-	クリ、ム色の粒子が少量混入	やや良好	外壁2576/16(灰白) 内壁2576/16(灰白)	岩沙	
11	陶粒	-	-	石灰少量混入 クリーム色の粒子が多量混入	良好	外壁2576/16(灰白) 内壁1075/16(灰白)	大井窯窯 野井本店西客廳	

第4表 唐干窯跡表探資料観察表

番号	種類	残存率	法蓋(単位cm)	粘土	焼成	色調	法記内容	備考
1	环身	1/6	底径9.5	黒い粒子が微量混入	良好	外壁2574/16(灰) 内壁2574/16(灰)	岩干窯	
2	壳	1/6	口径21.5	石灰少量混入 黑い柱が多量混入	良好	外壁2573/16(オリーブ灰) 内壁2573/16(オリーブ灰がかった灰)	底下窯	自然釉
3	壳	-	-	(縦2~3cm)長径の柱が少量混入 石灰少量混入	良好	外壁2573/16(灰) 内壁2573/16(灰)	岩干窯	
4	壳	①	-	石灰少量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰)	岩干窯	
	②	-	-	石灰少量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰)	岩干窯	
5	壳	-	-	クリーム色の粒子が多量混入 長石が少量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰)	岩干窯	
6	壳	-	-	クリーム色の柱が少量混入 黑い柱が多量混入	やや良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰)	底下窯	
7	壳	-	-	クリーム色の柱が少量混入 長石が少量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰)	岩干窯	
8	壳	-	-	黒い柱が少量混入 クリーム色の粒子が多量混入	良好	外壁2576/16(オリーブ灰) 内壁2576/16(灰)	底下窯	
9	壳	-	-	径1~2cmの砂粒が少量混入	良好	外壁2573/16(オリーブ灰) 内壁2573/16(灰)	岩干窯	外壁に被灰

第5表 大井窯跡群表探資料観察表

番号	種類	残存率	法蓋(単位cm)	断土:	焼成	色調	法記内容	備考
1	环身	-	-	クリーム色の粒子が多量混入	良好	外壁2575/16(灰) 内壁2575/16(灰)	大井カマアト	
2	碗	-	-	クリーム色の粒子が少量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰)	大井カマアト	②が埋れた部分の表面に 被灰 底地不明
3	壳	1/5	口径13.6	クリーム色の粒子が少量混入 黒い柱が多量混入	良好	外壁2576/16(灰) 内壁2576/16(灰)	大井カマアト	
4	碗	①	-	やや粗い粘土	良好	内壁1073/2(赤茶)	大井カマアト	
4	碗	②	-	石灰少量混入	良好	内壁1073/2(赤茶)	大井カマアト	
4	碗	③	-	やや粗い粘土	良好	内壁1074/1(赤灰)	大井カマアト	
5	壳	1/10	11.1径37.8	石灰少量混入	良好	外壁2573/16(灰) 内壁2573/16(灰)	771187718 6760505	



65



69



68



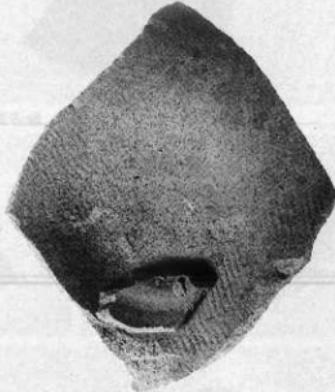
107



133



134



136

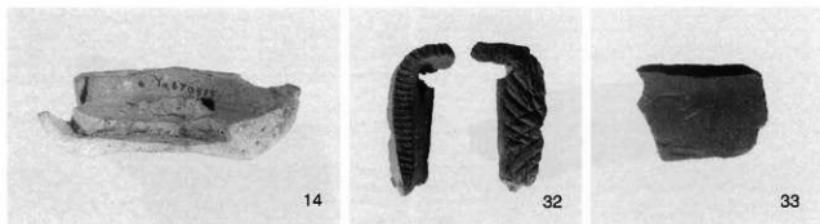


142

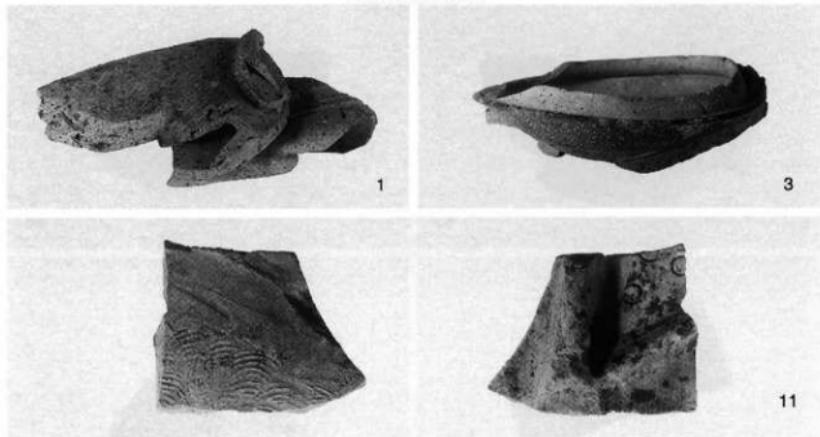


145

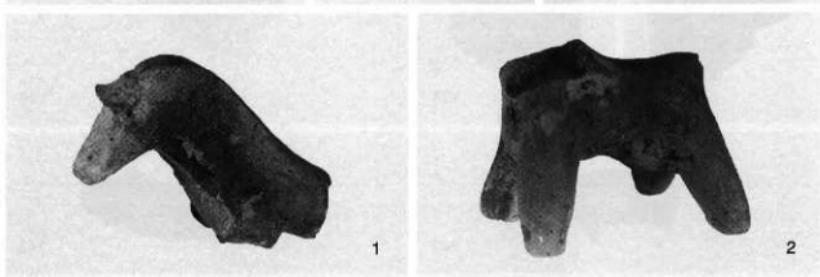
図版2



山津窯跡表採資料



岩汐窯跡表採資料



大井窯跡群表採資料 他

島根大学考古学研究室調査報告第9冊

大井窯跡群表採資料の報告

平成20年3月1日 印刷

平成20年3月1日 発行

発行者 島根大学法文学部考古学研究室

〒690-8504 松江市西川津町1060

印刷 東京印刷株式会社

〒690-0859 松江市国屋町452-2